

高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性

OKUSHIZU Charm of the Ikawa area



春



夏



秋

冬



自然
文化
が織りなす
人
南アルプスユネスコエコパーク
オクシズ
井川の魅力

私たちの住む井川って こんなところ。

春

フキノトウが顔を出すと、寒かった冬もそろそろ終わり。
静岡で桜が散りだすと、ようやく井川の桜は花開く。
そう、里山に春が来るのをみんな待ってる。

夏

霧香る井川茶。初夏の匂いが井川を包んでる。
南アルプスにホルンの音が響きわたると夏山シーズンの始まり。

秋

山栗が落ちこちると、そろそろ秋の気配。
紅葉に彩られた里山の奥では、南アルプスが雪化粧をはじめ。

冬

き〜んと冷たい空気が頬を射す。でも、井川の人ってみんなあったか。
夜空を見上げると、きらきら輝く満天の星たち。
冬の井川はぬくもりであふれてる。

井川の昔中にはでっかい南アルプス。

いつも私たちのこと、見守ってくれてる。

だから、私たちも南アルプスのこと、大切にしなくちゃ。

南アルプスは井川の宝もの。そして、井川は私たちの宝もの。

だから、井川のために今私たちができること。

井川のこと。南アルプスのこと。

そのやさしくて、あたたかい、私たちのふるさとのこと。

みんなで考えていきたいね。



奥深きオクシズ“井川”は奥も深い。

■南アルプスの玄関口・井川地区

- 01 のんびりと。里山そぞろ歩き。……………P.5
- 02 南アルプスとの共生。井川に残る歴史文化との出会い……………P.7
- 03 南アルプスと日本の電源開発の歴史。……………P.9
- 04 井川までの鉄道旅。のんびりは最高の贅沢。……………P.10
- 05 井川をまるごと体験。エコツーリズム……………P.11
- 06 井川幼稚園・小学校・中学校 12年間の絆……………P.13

■井川大目地区・勘行峰周辺

- 07 自然と触れよう、自然を学ぼう
三角屋根が目印。南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家……………P.15
- 08 井川の生活を支えた街道「大目古道」……………P.16
- 09 森の中で過ごす休日。県民の森……………P.17
- 10 ゲレンデデビューするならここ。リバウエル井川スキー場……………P.18

■森林浴に出かけよう!

- 11 自然とふれあいながら、井川の森で過ごす休日。……………P.19

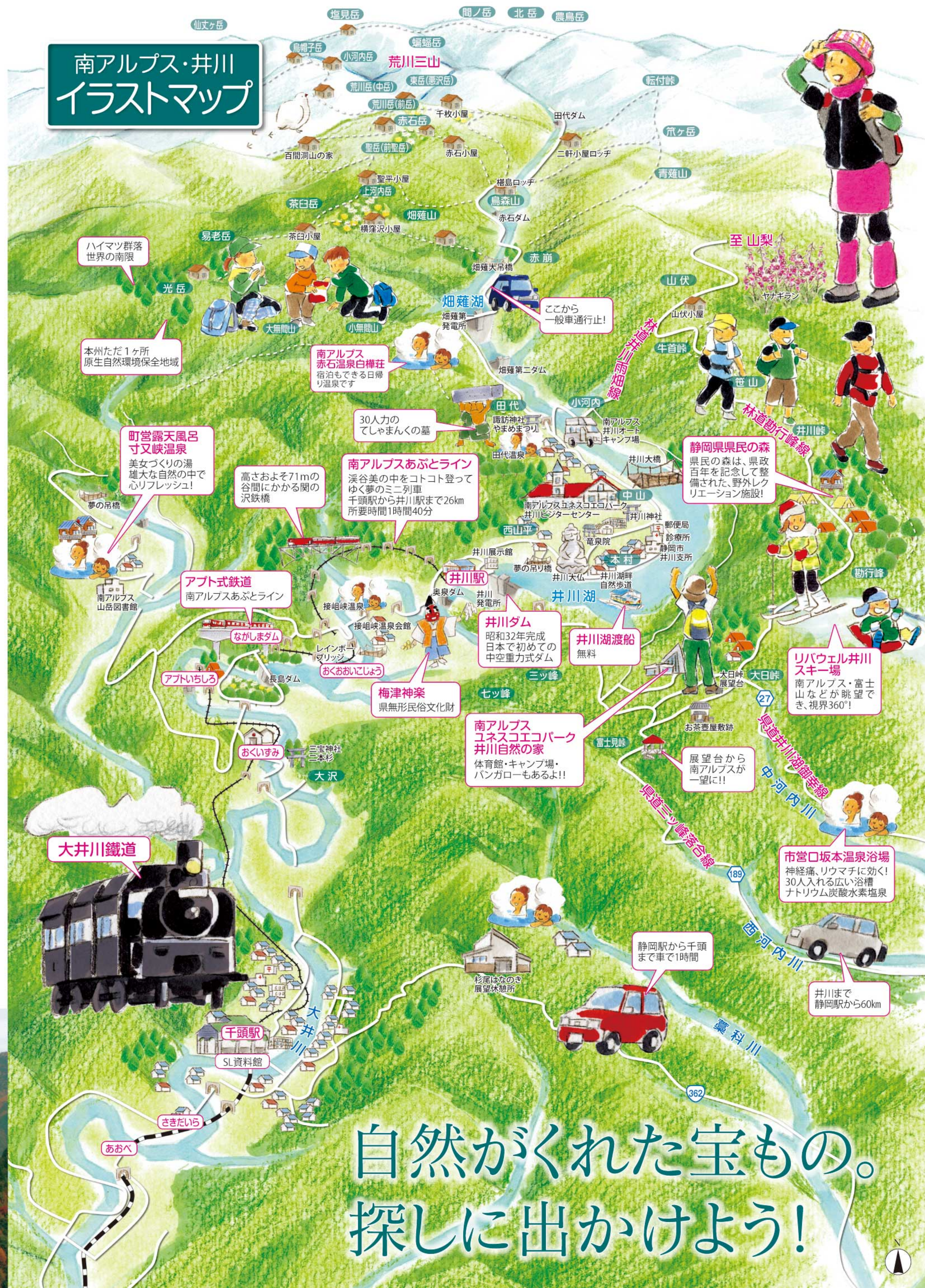
■人、そして歴史文化との出会い

- 12 井川湖畔にたたずむ癒しの里をめぐる休日。……………P.20

■南アルプスユネスコエコパーク

- 13 高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性。南アルプスユネスコエコパーク……………P.21
- 14 自然の宝庫、南アルプスの魅力……………P.23
- 15 南アルプス・大井川源流部・山小屋……………P.25
- 16 イベント・宿泊・交通案内……………P.27

南アルプス・井川 イラストマップ



自然がくれた宝もの。
探しに出かけよう!



大日古道石仏(大日院)

南アルプスの玄関口・井川

静岡市街地から北に60km。標高約700mの山間地に位置する井川。そのメインタウン井川本村は、井川湖畔にたたずむ小さな集落です。そこには、市役所の支所をはじめ、幼稚園、小中学校などの行政施設、診療所、郵便局、農協などと一緒、地域の暮らしを支える可愛いお店が軒を並べています。井川には南アルプスとの共生によって育まれてきた生活文化がいまなお大切に受け継がれています。そして、井川の一番の自慢はあたたかなおもてなし。井川に来たら、地域の皆さんのあたたかな心との出会いも楽しみです。

滝浪百香さん(3年)



鈴木りみさん(3年)



滝浪祐香さん(1年)



井川中学校生徒さんが切り取った
日常の風景。(2012年 井川中学校写真展)

宮崎真帆さん(1年)



加藤菜々子さん(2年)



井川郵便局の記念スタンプ **旅の思い出に**

井川湖を望む高台にある可愛らしい郵便局。窓口で希望すれば、風景印のスタンプをおしてもらえます。井川の旅の記念に、親しい人に手紙を出してみましょう!

行かざあ 井川の観光スポット

●豆知識①
井川のトウモロコシは甘味が強くてとってもおいしいです! 無人駅などであまっているので、ぜひ一度食べてみてください。

●豆知識②
井川には古くは上り船の文化が根付いており、へんしん・かんりのしりふりなど船宿の川船料理が有名です。また、高島に井川のめいずがあり、そのめいずを曲げて作ったお菓子で、主に井川が作られています。

●豆知識③
井川には古くは上り船の文化が根付いており、へんしん・かんりのしりふりなど船宿の川船料理が有名です。また、高島に井川のめいずがあり、そのめいずを曲げて作ったお菓子で、主に井川が作られています。

●豆知識④
井川には古くは上り船の文化が根付いており、へんしん・かんりのしりふりなど船宿の川船料理が有名です。また、高島に井川のめいずがあり、そのめいずを曲げて作ったお菓子で、主に井川が作られています。

●豆知識⑤
井川には古くは上り船の文化が根付いており、へんしん・かんりのしりふりなど船宿の川船料理が有名です。また、高島に井川のめいずがあり、そのめいずを曲げて作ったお菓子で、主に井川が作られています。

※2012年に井川中学校の生徒たちが作成した案内看板。井川駅前に設置されています。

植物

- ◆オニユリ(7~8月)
ユリ科の植物で、暗い紫色の斑点がついた橙色の花を咲かせます。井川ではこれを育てている人がいるので、勝手に採取しないようにしてください。
- ◆百日草(8~9月)
夏から秋にかけて見られる花です。菊に似た花をつけます。色々な場所で見られるので探してみてください。
- ◆アジサイ(6~9月)
梅雨の頃に見られるユキノシタ科の植物です。花の色が少しずつ変わるので七変化ともいいます。雨上がりのアジサイはとてきれいなので、探してみてください。
- ◆イチョウ
秋に葉がきれいに染まります。井川小学校からは、イチョウと一緒に井川の秋の景色を楽しむことができます。
- ◆ノウゼンカズラ(7~8月)
中国原産で日本では平安時代に伝わり、観賞用などとして植えられてきた歴史ある花です。アサガオのような形をした花を見ることができます。



歴史的建造物

- 1 井川大仏
歯科医の夫婦が5年かけて作った大仏で、春と秋に大仏祭が行われます。園に御利益があるとされています。
- 2 門間の地蔵堂
お正月に「おこもり」が行われます。
- 3 龍泉院
1544年(天文13年)に建てられました。1544年(天文13年)に建てられました。1544年(天文13年)に建てられました。
- 4 井川神社
井川五部ダム建設の為、五社が一つの神社にまとめられて出来ました。家内安全・商売繁盛に御利益があるとされています。
- 5 中野観音堂
静岡県指定有形文化財になっている「中野観音堂仏像群」5体を安置する建物です。
- 6 大島神社
1902年(明治35年)に建てられました。病氣平癒に御利益があるとされています。
- 7 大井神社
ダム建設の為に、今の場所に移りました。災難除け・けもの除けに御利益があるとされています。
- 8 薬師堂
1770年(天明7年)に建てられました。
- 9 諏訪神社
長野県と交流があった際、神様を分けてもらい出来ました。家内安全・安産祈願に御利益があるとされています。
- 10 三十三観音
道路標識の役割で道に置いてありますが、一つの場所に集めました。
- 11 小河内大井神社
お犬様の木像があります。災難除け・けもの除けに御利益があるとされています。

言伝え・里話

- 1 本当の井川駅
本当の井川駅はこの辺りに作る予定だったそうです。
- 2 南アルプスユネスコエコパーク 井川ビジターセンター
頂上の鐘を正面の双子のモミの木に向かって願いをしながら鳴らすと願いが叶うそうです。
- 3 秋葉灯籠
1月に行われるお盆まきで使われます。穴の空いた小銭を家に吊すと、火事にならないといわれています。
- 4 てしやまんくの墓
浅間神社の鳥居を持ち上げた「てしやまんく」の墓があります。井川の所々に「てしやまんく」の民話の載った看板があるので、読んでみてください。

景色

- 1 小学校の坂
4月中旬には、湖に太陽の光が反射しきれいなエメラルド色の湖を見ることができます。また12月中旬には家の屋根や木に積もった雪が反射し、光っている様子がとても幻想的です。
- 2 渡船
井川湖を遊覧しながら井川の自然を感じることができます。11月上旬は美しい紅葉を間近で見ることができます。
- 3 南アルプスユネスコエコパーク 井川ビジターセンター
4月中旬には鮮やかなピンク色の桜を見ることができます。また、らせん階段を登ると村路が一望できます。井川の緑を全身で感じてみてください。
- 4 井川大橋
7月中旬は、空の青色と湖の緑色の対比がとてもきれいです。また12月中旬は南アルプスの山々が雪がかった景色が圧巻です。



02 南アルプスとの共生。 井川に残る歴史文化との出会い



諏訪神社

大井川上流(井川)にやってきた人々

大井川上流、井川湖を挟んで右岸側に田代、左岸側に小河内という集落があります。これらの集落は大井川の最奥に位置する集落です。田代地区の南にある割田原遺跡では、縄文時代の土器や住居跡が発見されており、今から4,000～5,000年前には人々が生活していたことが分かっています。

この時期に暮らしていた人々がどこから来たのか、またその後の人々がどうなったかについては明らかになっていませんが、田代地区には、「先祖は遠山から来た」という伝承が残っています。また、山を越えた信州側の滝浪姓の家では「井川から来た」「井川へ行った」という伝承があり、信州側からは人々だけではなく、シヨイガミと呼ばれる神様も一緒になって来たと言われています。特に田代の諏訪神社は、長野県の諏訪大社から、信濃俣、沼平、下ノ嶋、田代と、山を越えて勧請されてきたという伝承が残っています。これらの伝承は、信州側から南アルプスの山々を越えて来たヤモード(山人)が井川の村を山の奥から順に開発していったことを物語っています。

一方、大井川を挟んで田代の反対側にある小河内は、武田氏の落人が山を越えてこの地に住み着いたとする伝説や、金山の入夫が山を下りてきて村を作ったという伝説が残っています。この地域にある大井神社には、天正12(1584)年に社殿が焼失したという記録があり、この頃には村としての形態が整っていたと考えられます。16世紀初め、今川氏によって井川の金鉱(笹山金山)が開発され、山梨側からのほか、土肥金山からも人がやってきたと言われています。川を挟んで向かい合う二つの集落ですが、そこに住む人々が移り住んだ歴史には、様々な人々の交流が伺えます。

田代の人々が南アルプスの奥地まで広大な農地を展開・確保し、焼畑により生活を営んできたのに対し、小河内の人々は集落の近くに小規模な農地を持ちながら、木材の加工や金採掘、木材運搬といった産業によって生活をしてき

たと考えられます。

南アルプスとの共生によって育まれてきた生活の知恵。自然と向き合い敬う心。井川に残る歴史文化は、人と自然とのつながりがもたらす宝なのです。



諏訪神社とヤマメ祭り (静岡県指定無形民俗文化財)

田代地区では「お諏訪さん」と呼ばれ親しまれています。毎年開催される「ヤマメ祭り」は、村の安泰を願い、ヤマメの腹にアワをつめたヤマメずしを神に捧げることで、その年の豊作・豊漁に感謝する祭りとして受け継がれてきました。また、三住ヶ岳(大無間山)と強いつながりを出す伝承も多く残っていて、「社殿は三住ヶ岳を向いている」、「ヤマメ祭りに用いるヤマメは三住ヶ岳山頂から下ったところにある三住ヶ池からの流れであるという明神谷で釣る」、「参道入口にあるお井戸の水も、三住ヶ池の伏流水である」、この他、雨乞いの神事が三住ヶ池で行われていたという言い伝えもあり、三住ヶ岳が聖域として認識されてきたことがわかります。これらの伝承の由来ははっきりしていませんが、いずれにしても信州から移り住んできた先祖の歴史を象徴するものと言えます。

●出典「南アルプス学・概論(改定版)2010年3月:静岡市」より



大井川の木材流送「鉄砲と川狩り」

鉄道やトラック等の陸上輸送が発達するより前、わが国の多くの河川は水上交通・輸送の主役でした。大正から昭和20年代を最盛期として、大井川源流部の木材も、約160日かけて島田市向谷(むくや)まで流送されました。秋から冬、先端から最後尾まで200人を超える人たちが、4kmにわたって流送に携わりました。激流・庄川(富山県)で鍛えられた「越中さん」と呼ばれる職人さんたちがその主役で、鉄砲堰を築き、越中船を巧みに操り、岩に引っかかった材を流れに戻しながら下りました。木製のダムで川を堰きとめ、放つことにより、増水の勢いで大量の木材を押し流す「鉄砲」は勇壮なものでしたが、昭和30年代の発電用ダムの建設とともに、撤出は架線やトラックにとって代わりました。



焼畑の歴史

井川では古くから焼畑が盛んで、井川の「ハタケ」とは焼畑を指す言葉でした。昔の人は山奥の所々に居小屋を立て、そこからさらに奥に焼畑を開き、春先から秋まで居小屋に泊まり込んで畑仕事をしました。井川の焼畑は男衆が「ヤボヤキ(ヤブ焼き)※」を行ったあと山仕事に入ると、女衆がその畑で草とりや収穫を行う分業体制でした。春に行う「ハルヤブ」のあと、1年目はヒエ、それ以降はアズキなどの作物が順に栽培され、3～4年間作物を栽培した後、ハタケはヤブに戻され、地力が回復するまで20～30年待つてからまたハタケにするという、長い周期で畑地を循環させていました。このように井川の焼畑は、植生回復まで見込んだ循環的なもので、地域の自然と調和した生活文化とも言えます。田代地区では、ヤマメ祭りに使われるアワが現在も焼畑で作られています。※山の草木を刈って枯らし、そこに火を入れてハタケとすることを「ヤボヤキ(ヤブ焼き)」と言います。

●出典「南アルプス学・概論(改定版)2010年3月:静岡市」より

ヤマメ信仰

ヤマメ(ニホンオオカミ)は恐るべき存在である一方、焼畑農業を行う上で作物の害獣となる、ニホンジカやイノシシなどを追い払う存在でもありました。そのため大井川流域では、ヤマメを祀る神社がいくつかみられます。田代の大井神社では、「大井」としてその下に一頭のヤマメが右向きで座っている図柄の神札(ふだ)があり、疫病(えきびょう)よけ、猪鹿(しし)よけとして用いられたという伝承が残っています。現在、ニホンジカの増殖、高山域への侵入が問題となっていますが、人と自然との関係が密接であった頃はそのバランスがとれていました。ヤマメが捕食者として南アルプスの生態系の頂点にいたことや、適度に行われていた狩猟も、ニホンジカの繁殖を抑制する要因の一つとなっていました。

●出典「南アルプス学・概論(改定版)2010年3月:静岡市」より



井川神楽



神楽とは、祭りの場に神を招き、舞を奉納することで邪気を祓い、または豊穰に感謝する伝統芸能のことです。安倍川流域山間部と大井川流域山間部に伝承されている神楽は「駿河神楽」と総称され、現在約30箇所まで伝承されています。神楽は、伝来の過程やその地域での交流の中で変化していき、地域ならではの特色が生まれます。駿河神楽も大井川という境界より東側で、駿府の浅間神社が中心となって交流が行われ、今の形ができたと考えられます。井川の神楽は、明治末期から大正、昭和初期に盛んに行われていました。古くから重要な娯楽であり、成願成就の真剣なる祈願でもありました。

●出典「南アルプス学・概論(改定版)2010年3月:静岡市」より

ひよんどり

(静岡市地域登録文化財)

井川最奥の集落、小河内地区に伝わる正月行事です。起源は定かではありませんが、地元ではイセソウホーなる人物が曲物の製作技術と共にこの行事を伝えたと言われています。元旦の早朝、頭屋(現在は公民館)に集合した人々が提灯を片手に村内を一周し、昔はムラで唯一の共同水場であった井戸に向かいます。頭屋と井戸の前では、独特の節回しに特徴のあるヒヨンドリの唄が納められます。唄の内容は火伏せを中心にムラの安泰、家内安全を祈るものなどで構成されています。ヒヨンドリと称する行事は、大井川、天竜川流域を中心に様々な形で伝承されていますが、静岡市内では小河内地区にだけ残る貴重な行事です。

●出典「南アルプス学・概論(改定版)2010年3月:静岡市」より

井川メンバ

井川では、メンバを山仕事で使うお弁当箱として親しんできました。メンバのもととなった曲物は、鎌倉時代から作られていたといわれていますが、江戸時代末期になると、その曲物に漆塗の技術が加わり、現在の井川メンバができました。現在も昔から伝わる48の行程によりひとつひとつ丁寧に作られています。井川メンバは漆を丁寧に塗り重ねているので、軽くてとても丈夫です。また、修理をすれば長く使うこともできるので、井川ではメンバを代々受け継ぎながら、大切に使用しています。



南アルプスの金山の歴史

南アルプス周辺の金山の歴史は、戦国時代まで遡ることができます。16世紀に今川氏によって井川湖の北東側に位置する笹山金山が開発されると、武田時代には日影金山とともに坑道が掘られ隠し金山とされました。金はプレートの沈み込みによって地下水が熱せられたときに溶け込んだ金属成分が沈殿して固まったものと考えられています。金鉱脈の周囲では熱水が存在するため、金山跡をたどっていくと同じように温泉も分布していることがわかります。大井川の上流では、小河内川や笹山金山など、室町時代の頃から金の採掘が行われてきました。採取には、籠を太目に荒く編んだ目に砂金を引っかけるネコザ、砂金を含んだ砂をすくい上げるカッサ、砂金を選別するユリボンなどを使います。小河内ではユリボンの他、種々の水替柄杓・曲桶が必要であったため曲物作りが盛んになっていきました。この曲物の技術に江戸時代末期の漆塗りの技術が加わり「井川メンバ」が作られるようになりました。

●出典「南アルプス学・概論(改定版)2010年3月:静岡市」より

御堂山(中野)観音堂と千手観音立像 (静岡県指定有形文化財)

お堂内には平安時代中期に作られた千手観音立像をはじめとする5体の仏像が安置されています。その由来は、はっきりとわかっていませんが、地元では先祖が井川まで背負って運んできたと言っています。その際、里芋を食べながら峠を越えてきたとも言われており、観音堂のお祭りは今でも里芋に味噌つけた芋田楽が参詣者に振舞われます。観音堂のお祭りは1月6日と2月7日の二晩行われます。かつては、一晩お堂で過ごしたことからお籠(こも)りと呼ばれています。1月6日は1年に1度、御本尊が御開帳される日です。今では6日の晩に御開帳が行われていますが、かつては一晩お籠りをしたのち、1月7日の早朝、太陽の光が差し込むわずかな時間だけ御本尊を拝むことが許されたそうです。

●静岡市文化財課資料より



箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川。 暴れ川が人々の暮らしに豊かきをもたらした 南アルプスと日本の電源開発の歴史。



電源開発と暮らしの変化

南アルプス南面に降るたくさんの雨を集めた大井川は極めて急で、多くの災害を引き起こしてきました。この暴れ川を制御し、その流れをエネルギー利用するため発電ダムが作られてきました。現在、大井川沿いには13のダムと15地点の発電所があり、合計で最大出力約69万KWの電力を供給しています。また、大井川の水は、焼津市から袋井市までの1万haを超える地域の農業用水、上水道用水、工業用水としても利用されています。一方、井川では井川ダム築造により191戸の移転が行われました。昭和28(1953)年には口坂本から西山平までに至る索道、昭和29(1954)年には中部電力大井川専用鉄道が市代駅から堂平駅まで延長敷設となり、交通の便も一気に良くなりました。また、玉川村横沢を起点に富士見峠を越えて井川ダムを結ぶ「井川林道」が昭和33(1958)年に開通しました。

(静岡市発行「南アルプス学」観論より)



中部電力井川ダム

昭和32(1957)年9月に完成、またの名を五郎ダムと呼び、日本で最初の中空重力式ダムです。出力は62,000kw(最大)総貯水量は15,000万トンです。(完工時)

中部電力井川展示館

井川展示館では、水力発電のしくみやダムの役割、自然と電気の関係を楽しみながら紹介しています。
所在地：静岡市葵区井川字西山沢1956-1
営業時間：9時～16時 入館料：無料
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)ただし5月・8月・11月は無休)および冬期(12月から2月)



井川湖渡船(定期遊覧)

井川ダムの建設でつくられた井川湖によって、対岸への交通手段を失った住民の便を図るため、昭和33(1958)年に旧井川村の事業としてはじまりました。当初は2隻で往來していましたが、対岸利用者の減少と、観光客の増加に伴い、平成6(1994)年から1隻を観光用に切り替え、定期観光船として井川湖を約1時間かけて運航しています。定期観光船の赤石丸は定員20名で乗船は無料です。なお、ダムの水位や天候により、運行できない場合があります。運航状況の確認は渡船待合所(054-260-2505:7:00～17:00)までお問い合わせください。



中空重力式ダム(井川ダム・畑種第一ダム・畑種第二ダム・高根第二ダム)

井川ダムは、建設当時、高価であったセメントを節約するため、ダム内部の約3割が空洞となる中空重力式を日本で初めて採用しました。日本には中空重力式ダムが13基あり、中部電力(株)には、この井川ダムの他に、大井川水系(静岡県)の畑種第一ダム、昭和37(1962)年、畑種第二ダム、昭和36(1961)年、木曾川水系(岐阜県)の高根第二ダム、昭和43(1968)年の4基があります。



井川ダム内部 発電機



畑種第一ダム 写真：中部電力提供

大井川に響く汽笛。古き良き時代を大切に受け継ぐ心。自然と文化が奏でる最高の時間。

井川までの鉄道旅。 のんびりは最高の贅沢。



大井川鐵道のSL(蒸気機関車)と南アルプスあぶとライン

大井川鐵道は、東海道の宿場町金谷を起点に大井川に沿って北上し、南アルプス玄関口の井川までの65kmを結ぶ私鉄で、大井川本線(金谷駅から千頭駅までの39.5km)と井川線(千頭駅から井川駅までの25.5km)に分かれています。昭和51(1976)年、全国に先駆けてSL(蒸気機関車)の動態保存を始めたことでも有名です。大井川本線ではほぼ毎日SLが運行しています。緑の茶畑の中を走り抜けていくSLの姿は、まさに日本の原風景で、環境省の残したい日本の音風景百選に選ばれています。また、日本で唯一のアプト式区間を持つ井川線は、井川ダム建設用資材運搬のために敷かれた日本の電源開発の歴史を刻む鉄道です。井川線は「南アルプスあぶとライン」と呼ばれ、井川はその終着駅です。沿線には、1000m進んだときに90mの高差(90%)の急勾配を昇り降りする日本唯一のアプト式区間や、中部の駅100選に選ばれた奥大井湖上駅、高さおよそ71mの関の沢橋梁など見どころも満載です。SLで昭和の懐かしさを感じたら、井川線に乗り換え、森林の中をのんびり揺られ井川まで。そんな時間を気にしない古き良きローカル線の旅も井川の魅力です。

廃線小路とレトロな町なみを歩こう! 『井川湖畔遊歩道』



いまは線路と枕木だけが当時の面影を残す、井川ダム建設当時の資材搬入駅「旧堂平駅」まで続く廃線跡を利用した遊歩道が、平成25年秋に開通しました。遊歩道は、廃線小路から高さ30mの夢の吊り橋を渡って井川大仏をめぐり、井川本村地区のレトロな町なみの中を歩くコースです。帰りは井川湖の渡船を使って井川ダムまで戻ることができます。井川へ来たなら、まずは井川湖を眺めながら、のんびりと廃線ウォーキングを楽しんでみましょう!



大井川鐵道井川線のおもしろ発見!

- ◆井川線のトンネル
トンネルに注目!よく見ると61の表示が…。井川線は、なんと61個のトンネルを抜けて井川に来ます。
- ◆尾盛駅
降りても何もない、どこにも行けない秘境駅。かつては工事関係者で栄えた駅だったそうです。今は理さんが列車の往來を見守ってくれています。
- ◆関の沢橋梁
高さおよそ71mの絶景。関の沢橋梁。橋梁の上で井川行きの列車のみ1分間ほど止まります。まだまだ井川線には見どころがたくさんあります。車内では乗務員さんが見どころを紹介してくれます。

写真：中部電力提供

井川をまるごと体験。 エコツーリズム

自然とのふれあい。歴史文化の伝承。そしてあったかな笑顔。
井川はたくさんの宝もので溢れてる。だから、みんなで探しに出かけよう。

食文化体験



とうもろこしもぎ

一度は食べてほしいあま〜いとうもろこし。井川自慢のピカイチ農産物。井川のとうもろこしがあまくておいしい理由は井川で聞いてみよう!とうもろこしをもちで食べる季節限定の体験です!



雑穀餅づくり

井川の豊富な山の幸は味も香りも絶品! 地元の達人たちが伝授する、素材を活かしたレシピを楽しむ体験です。出来たてのお餅を食べてみよう。



そば打ち

そばの奥深さ、そば打ちのこつを名人から教わりましょう!こねて伸ばして細〜く切る。長くておいしいおそばを打ってみましょう。



こんにゃくづくり

こんにゃくって何からできるの?!ぶるぶるこんにゃくとお芋のお話とこんにゃくづくりの体験です。できたてのこんにゃくを井川の自然がいっぱい詰まった特性のあじ味噌で味わおうおまけつきです!

生活文化体験



つる細工

山に眠る宝物“つる”を使って自分だけのつる細工を作ってみましょう。里山の素朴な生活文化に触れる体験です。

歴史文化体験



史跡めぐり

縄文時代から続く井川の歴史。村の中を歩いてみると、あちらこちらで昔から代々受け継がれてきた伝統や文化と出会えます。井川の歴史探しに出かけてみましょう。



井川神楽鑑賞

点在する集落ごとに神様が祭られ、その神様を崇めるために“神楽”は奉納されます。神楽は地域ごとに面や着物、舞い方に違いがあります。井川の神楽は観るだけでなく、舞いなどの体験もできます。井川の神楽に挑戦してみましょう!



俳句を詠む

鳴く鳥に、咲く花に、そして人の営みに…。自然豊かな井川には句材がいっぱいです。自然に囲まれた井川だからこそ詠める詩。あなたの17文字を一緒に探しましょう。

エコツーリズムや観光の拠点。ちょっとうれしい、おもてなし。井川に行ったら、ぜひ立ち寄ってみよう。



南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター

井川の情報ステーションです。井川観光協会、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会の事務局も兼ねていますので、井川にお越しの際にはお気軽にお問い合わせください。

●お問い合わせ: TEL.054-260-2377 ●営業時間: 9:00~16:00 (火曜定休 (祝日の場合はその翌平日)、年末年始)
●HP: 井川情報ステーション (<http://ikawa.ooi-alps.jp/>)



井川農林産物加工センター「アルプスの里」

気さくなおばちゃんたちのお食事処。手打ちそば、季節の山菜てんぷら、柏餅等々。やまめごはんがお勧め。冬に仕込んだ味噌も売っています。そば打ち教室、柏餅づくり教室、お弁当の注文もできます。(要予約)

●お問い合わせ: TEL.054-260-2573 ●営業時間: 11:00~14:00 (月曜日、年末年始)



おっかちゃんのみせ

西山平の畑の真ん中にある、新鮮野菜の無人販売施設。井川の採れたて野菜が並びます。7月下旬から8月上旬頃には、流通量が少なくてなかなか手に入れることができない井川のとうもろこしも販売されています。日中と夜の温度差が大きい井川では、夏のとうもろこしを代表に、キャベツ、ダイコン、白菜など甘くておいしい野菜が採れます。

地元のお父さん、お母さんたちが丹精込めて育てた野菜を販売しています。
必ず、表示金額を払って購入してください。



南アルプス・井川オートキャンプ場

井川ダム最上流部の湖畔に位置するオートキャンプ場です。テントサイトは41区画あり、炊飯室、水洗トイレ、温泉風呂、コインランドリー、コインシャワーがあります。

●お問い合わせ: TEL.054-260-2322 ●営業時間: 4月の第4土曜日から5月末まで及び7月から10月末まで (チェックイン13:00、チェックアウト11:00) ●入場料: 大人300円、小人100円、サイト使用料: 1区画3,500円、AC電源: 1日1,000円、カヌー貸出: 30分500円、温泉入浴料: 300円 ※田代温泉の泉質はナトリウム炭酸水素塩冷鉱泉、効能は神経痛、関節痛、慢性消化器病。



南アルプス赤石温泉・白樺荘

市営温泉施設。泉質は単純硫黄泉、効能は神経痛、関節痛、糖尿病、皮膚病などに有効。独自のぬるぬる感が楽しめます。
●お問い合わせ: TEL.054-260-2021 ●営業時間: 日帰入浴は4月から11月10:00~18:00。12月から3月まで10:00~17:00。
●宿泊: チェックイン15:00、チェックアウト10:00 ●定休日: 日帰入浴毎週火曜日 (祝日の場合は翌平日) ただし、8月・11月は無休。(宿泊は年中無休) ●入浴料: 中学生以上510円、小学生200円、6才未満無料 (日帰り) 宿泊料: 中学生以上4,110円、小学生2,050円、宿泊者食事料: 夕食1,850円、朝食1,030円

南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会

平成20年、南アルプス・井川地域の自然、文化、歴史等の資源活用とともに、関係するすべての人々が地域資源の保全と利用に責任を持ち、地域ならではのエコツーリズムを推進することによって、地域の活性化に寄与するため、南アルプス・井川エコツーリズム推進協議会が設置されました。

●井川地域におけるエコツーリズム体験の申し込み、お問い合わせは南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンターへ。 受付時間9:00~16:00 (火曜定休)

申し込み・お問い合わせ **TEL.054-260-2377**

井川の生活をいつも守っている 頼れる行政機関



静岡市役所井川支所
TEL.054-260-2211



静岡中央警察署井川交番
TEL.054-260-2110



井川診療所
TEL.054-260-2300



06 井川幼稚園・小学校・中学校 12年間の絆。

子どもたちの成長を地域ぐるみでいつも見守っている。

日本一の自然と由緒ある歴史・文化に囲まれた井川中学校。
夢に挑戦しつづける生徒たちが考える、井川の未来。

静岡市立井川中学校

校章

【制定】昭和24年7月

【由来】「おにかじ」という植物（梶の一種）の葉を圖案化したものの上に茶の花をのせ、その真中に「中」の字を入れて構成されている。「おにかじ」の葉は郷土における歴史的な人物の流れをくむ海野家の紋章を基にしており、茶の花は郷土の産物である茶を象徴している。

井川中D・S

D (Dream) ドリーム(夢・希望) 夢に向かって挑戦しよう

S (Sociality) ソシャリティ(社会性) 社会性を身につけよう



静岡市立井川幼稚園

※平成27年4月現在、休園中。

【教育目標】

～心いっぱい 体いっぱい 感じる子～

幼小中12年間、同じ地域で同じ仲間とともに育つ子どもたち。井川幼稚園は、「のびのびと自分の思いを出す子」を重点目標とし、子どもたちの学びのスタートを支援します。



▲井川幼・小・中合同学習発表会

毎年、井川支所のホールで地域の方々に日頃の生活や遊びを見ていただけます。大勢の中で子どもたちは元気いっぱい発表します。小学生や中学生の発表に刺激を受けています。アンケートには、いつも元気いっぱいとお褒めいただいています。



▲リバウエル井川スキー場でそりすべり

毎年、井川小学校と合同で地域のスキー場へそりすべりに出かけます。真っ白なゲレンデで青い空と富士山、南アルプスに囲まれて楽しめます。帰りのバスではぐっすり眠って帰ってきます。

地域へ園外マラソン▶

子どもたちは、毎日、マラソンに取り組んでいます。寒い季節になると、子どもたちの足腰も鍛えられていきます。3学期は地域へ園外マラソンに出かけ、行きかう人にあいさつし、気持ちいい汗をかいています。風邪で欠席する子はいません。



井川支所への避難訓練▶

井川小学校と合同で、裏山が崩れた場合を想定して、井川支所へ避難し、保護者に引き渡し訓練をしています。小さくても命の大切さや、自分を守ることの大事さを経験しています。



静岡市立井川小学校

校章



【制定】昭和49年4月23日制定

昭和48年4月1日、学校統合により、校旗・校歌の制定について一年間検討。住民の感情を十分考慮し校章を井川北小学校、校歌を井川小学校のものを採用。

【由来】

図案考案者の小林一男氏が、南アルプスの赤石岳の高い岩場にひときわ目立つ高山植物「ミネウスユキソウ」を圖案化したものである。厳しい風雪に堪え忍び、雄々しく生きる。それは、目を射るような銀白色のがくに包まれた清楚なクリーム色の花弁。どこかに気品の高さが偲ばれる。



▲いかわもみじマラソン

ふだん、同級生が少なく競走をすることがむずかしいけれども、秋のいかわもみじマラソンでは、各地からの参加者と一緒にならびます。



▲スキー教室

静岡市唯一のスキー場が学区にあります。毎年のスキー教室で、技術を向上させています。



▲ふるさと学習(そぼうち)

雑穀食文化が伝承されている井川地区。ふるさと文化を引き継ぐために、地域の方からそぼうちなどを教わります。

▼井川自然教室

ふるさと井川の山を歩き、遊び、自然の楽しさ、地域の魅力をたくさん発見します。



▲南アルプス山開き

静岡市の至宝・南アルプスの山開きにあたり、登山の人々の安全を祈ってアルペンホルンを奏でます



▲春の山菜教室

地元の方の指導のもと、学校の周りで見られる春の山の幸を探します。

平成22・23年度 静岡市立井川中学校の総合的な学習の時間「おにかじ探求学習(お探)」2年間のあゆみ

平成21年度の取り組み

「井川エコツアーリズム・体験プログラム」をヒントにテーマ設定 → 「探求」を

自然グループ
「井川」のパンフ作成や案内板をきれいにするのはどうか?

歴史グループ
「発見! 昭和の井川」この20年で井川の人口は半減! 古き良きものを残しつつ人口増加を!

食グループ
「井川」の食材を活かしてクッキーやおやき、コロッケを製作! 生かして下さい!

＜地域の声＞
・子どもたちは、みんな井川が好きなんだなあ。
・中学生の発想にビックリ!! ぜひ実現させて!
・中学生が井川のことについて真剣に考えている。大人も頑張らなきゃ!

平成22年度の「お探」は何をやるうか?

平成22年度のお探スタート!

井川の現状
・人口減少...20年間で約半減
・若い人が少ない。

このままでは、数十年後には「ふるさと井川」がなくなってしまうかもしれない危機...
なんとかしなさいませ!!
大テーマ決定!

井川のために、今、私たちができること

具体的に、何をやるうか??

自分たちで考える + アンケート
人々のニーズを知るためにも

アンケート実施

井川地区内のアンケートBOX
設置場所
井川駅・えほんの郷
観水荘・キャンプ場
郵便局・白樺荘他

7月31日
タウンミーティング(井川支所)
～市長さんにも聞いていただきました!

アンケートを街にも置かせてください!

各区域所に置いて頂けると! 設置をお願いに行きました。
お返事をいただいたお礼の気持ちを込めてお返ししました。

12月4日学習発表会(井川支所ホール)

今年、はじめて発表しました。

まずは、アンケート結果・考察を発表。

＜その1＞出来上がったパンフレット
運船・バス・アプト式列車の時刻表なども入れました。

＜その2＞パネルディスカッション
「自分達の井川への思い」を語り、会場の方々にも、考えてもらいました。

（地域の声）
私達以上に井川のことを考えている事、レベルの高い学習、すばらしいです。
・井川のことを考えている中学生、たのしいです。
・このように子どもたちが育っていることに感動です。

次年度「パンフH23版」「井川駅前 観光案内板プロジェクト」へ!

2月 看板完成・除幕式

「この看板は生徒のカリキュラムだけではできない特別なものになりました。私たちや地域の方々などたくさんの方々の井川を大切にしている気持ちもこの看板に込められました。この看板をたくさんの人に見てもらい井川を訪れる人が増えるといいと思います。」

平成24年2月28日(火)
「行かざる井川の観光スポット」
井川駅前看板 除幕式

多くの方々のご出席を賜り誠にありがとうございました。

講師のアドバイスのもと各自の思いを一つ!

・歴史的建築物
・言伝え、民話
・絶景ポイント
・旅館
・植物、食物
地図と解説を入れよう。看板の文字もイラストも書き足して、ずっと残るものにしよう!

12月3日学習発表会(井川支所ホール)

一人一人のプレゼンのあと、全員で看板の注目ポイントを発表しました。

自分の手で書いた、のせる内容も自分で考えたりでき、長く残るものをつくれ、うれしいです。

一人一人がいよいよ、たくさんの方に、皆さんの心を動かさしたと思います。

かかわってくださった人達に感謝したいです。

パンフレット平成23年度の完成

「井川の魅力」講演会から各自が、テーマを設定。地域の方々への取材やインタビューを通して、看板に載せたい井川の魅力を探求しました。

夏には静大生の学生さんたちと、互いにインタビューし合い、学習を深めました!
パンフレットを置かせていただいている方々ありがとうございました!

平成23年度のお探スタート!

今年のお探はどういうふうか?

パンフを今年版に直していこう!
どこを直していこうか?

パンフレット改訂作業

駅前看板を中学生のアイデアで新しくしていこう!

昨年年度の流れを受け平成23年度は「井川のために、私たちができること2011」というテーマでスタート!

駅前看板を新しくしたいよね! どんな看板にしていこうか?

この2つの活動に取り組んできました。



自然と触れよう、自然を学ぼう。三角屋根が目印。 南アルプスユネスコエコパーク 井川自然の家

南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家は、標高1,000mの井川高原に建つ静岡市の社会教育施設です。市内外小中高等学校の教育活動の他、青少年団体の自然体験活動に利用されています。一年を通して、自然と触れ親しむ各種事業の他、家族やグループへの施設開放も行っています。夏には長期宿泊体験事業を実施、小中学生が山伏(2,014m)登山に挑戦します。また、園内にはキャンプ場と体育館を併設しています。



井川自然の家(宿泊棟)

- ◆25,000.00㎡の敷地に、旧宿泊棟、新宿泊棟、食堂棟の建物があります。
- ◆それぞれの宿泊棟は2階建てで、自然の斜面をうまく利用して建てられています。
- ◆宿泊棟は、最大で320名が利用できます。
- 本館…… 宿泊室(10) リーダー室(4) トイレ(3) 洗面所(2) 保健室(1) 多目的室(1) 浴室(男女各1)
- 新館…… 宿泊室(6) リーダー室(2) トイレ(2) 洗面所(2) クラフト室(1)
- 食堂…… テーブル(40) いす(320) 手洗い場(11) 給湯水道(4)

多目的ホール(旧体育館)

- ◆2階にスポーツやレクリエーションで使用可能なフロアー、1階にトイレを完備しています。
- ◆フロアーではバレーボール、バスケットボール、バドミントンなどができる器具があります。
- ◆多目的ホールはキャンプ場の緊急避難場所としても使用します。
- ◆学校利用の場合は、使用料が免除になります。
- フロアー…… バレーボールコート(2面) バスケットコート(1面) バドミントンコート(3面) 卓球 和室(2) トイレ(男女各1) 放送設備

井川青少年キャンプセンター(キャンプ場)

- ◆67,425.00㎡の敷地内に、テントサイト、炊飯棟、シャワー棟があり野外泊ができます。
- テントサイト5箇所(テント89張可) 炊飯棟(4) バンガロー(3) トイレ(4) シャワー棟(男女各1) 管理棟(1)



正面玄関



本館宿泊室



多目的ホール



キャンプセンター管理棟

施設の利用や事業の開催については
TEL.054-260-2761まで
お問い合わせください。

井川自然の家

主な事業紹介

トム・ソーヤサマーキャンプ(山伏岳登山に挑戦!)

子どもたちが「トム・ソーヤ」の名にふさわしい「強い自分」と出会うことで、たくましく生きていく力を育てるとともに、仲間との集団活動を通して協調性を養います。その舞台を静岡市の宝もの「南アルプスユネスコエコパーク」にすることで、自然の美しさや厳しさを知り、故郷を愛する心も育てます。

トム・ソーヤ スキーキャンプ

井川の冬は銀世界に変わります。市営リパベル井川スキー場は、なだらかな初心者向けのゲレンデなので、初めてスキーをする子どもたちでも安心。仲間と一緒にスキーの楽しさや、冬の自然の美しさを味わいながら、自分の力で「滑る」、「止まる」ができるまで頑張ります。

主催事業(井川de〇〇〇)

ご家族やグループで自然の家を楽しめる日です。季節に応じた体験プログラム(山菜採り、バーベキュー、キャンプ、紅葉狩り、スキーなど)を楽しみながら、自然と触れ合う休日をお過ごしください。

井川と茶の関係

南アルプスを源流部とする大井川流域の独特の地形や気候は良質な茶葉を育みます。井川茶は霧の香りがするとされ、まろやかな渋みと甘味が特徴です。徳川家康公は駿府城内で茶会を催すため、冷涼な井川大日にお茶蔵を建設し、新茶を茶壺につめて夏の間保管し、秋に蔵出ししたお茶の味わいを楽しんだとされます。献上茶は秋の口切りに合わせて駿府に下るされたと言われています。口切りとは陰暦10月の初め頃、新茶の茶壺の口を切ること、また、その新茶とする茶会のことを言います。その故事にちなんだ行事が駿府お茶壺道中行列です。

お茶のまち静岡市の礎を築いた井川の偉人

明治に入り、茶は生糸と並び日本の代表的な輸出品となりますが、明治39年に井川出身の海野孝三郎氏の尽力によって清水港から直輸出されるようになると、市内は茶の集散地として急速に拡大、清水港は茶の輸出港として日本一の役割を担うようになりました。その海野孝三郎氏の功績をたたえた頌功碑が平成18(2006)年、日本平から清水マリンパークに移されました。碑の題字「茶功頌徳」は徳川宗家第16代徳川家達の手によるものです。

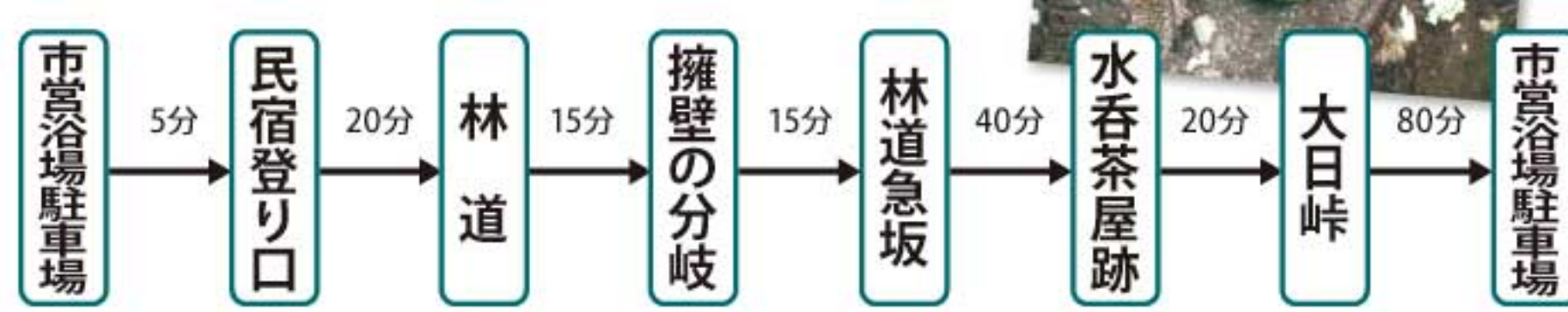


海野孝三郎氏の功績をたたえた頌功碑



大日古道

大日古道は約12Km、幅約60cm~90cm程の細い山道で、約100mごと40cmほどの観音様が33体祀られていました。この観音様は、元禄年間、通行人の安全と無事を祈り、地主や有力者が寄進したと伝えられています。いまは井川側の30体余りが大日院で大切に保管されていますが、口坂本側では5体しか確認されていません。また山頂の大日禰には大日如来を安置する大日堂がありましたが、1959(昭和34)年の台風で崩壊してしまいました。安置されていた大日尊像は石造りで宝永年間、当時の井川海野家の当主信武によって奉安されました。現在は本尊脇待とも大日院に奉遷されています。



大日古道を歩こう!

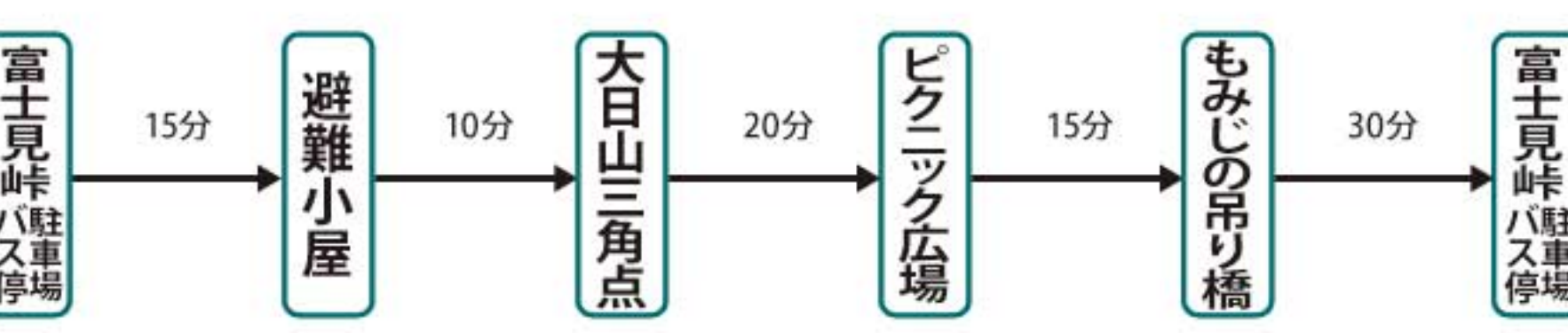
帰りは口坂本温泉でリフレッシュ!
口坂本温泉浴場の門前を通り、橋を渡って県道へ出ると正面右が登山口。指路標に従い幅の広い山道から林道へ。その先擁壁の分岐を右へ上がりま。急坂の林道もプレートを通り歩けば迷いません。湧き水の池が残る水呑茶屋跡を通れば峠はすぐそこ。富士見峠までの周遊コースもおすすめ!



手軽に森林浴。そして南アルプスの眺望が楽しめる

井川高原自然歩道を歩こう!(周遊コース)

井川高原の自然を手軽に楽しむなら、このコースがおすすめ!案内標識も整備されていますので、ファミリーでも安心して歩くことができます。富士見峠駐車場がスタート&ゴールです。途中にお茶壺屋敷跡があります。いまはまだ案内板が立っているのですが、江戸時代、駿府城で使うお茶をここまで運び上げて保管した場所です。そこからすぐそばのピクニック広場にお茶蔵が復元されています。いまも故事にならい春に壺に詰められたお茶が秋まで保管されています。



所要時間▶約1時間30分

井川 家康公が楽しんだ茶の香りは
井川の冷涼な空気によって熟成された。
井川の生活を支えた街道「大日古道」。

09 家族や仲間と一緒に森の中で過ごす休日。心と体を癒しに出かけよう！静岡県民の森。

静岡県民の森は、県政100年を記念して整備された野外レクリエーション施設で、静岡市北部の井川・梅ヶ島地区にまたがる尾根沿いの約1,000haの地域です。勘行峰・笹山・山伏岳の山々とともに、温帯性の美しい森林に覆われ、井川湖・南アルプス・富士山を望むことのできる景色の美しいところで、奥大井県立自然公園に指定されています。県民の森センター、キャンプ場などの施設は、富士見峠から約9km、豊かな大自然の懐にあります。



県民の森センター

県民の森や南アルプスの自然、井川の文化等を紹介した展示室、木工作を楽しむ工芸室、その他休憩室、講演室があります。展示室には県民の森に生息する様々な野生動物の剥製や昆虫の標本などが展示されており、貴重な資料館となっています。県民の森センターは県民の森の南、いわば玄関です。自然を理解し、正しく利用していただくための情報ステーションです。館内では休憩もでき、受付では周辺の案内やパンフレットも置いてありますので、お気軽にお立ち寄りください。



ロッジ(宿泊施設) & 管理事務所

1階に管理事務所があります。まずここで受付を済ませてください。管理人が常駐していますので、お困り際にはお気軽にお立ち寄りください。ロッジは4人用6室、6人用2室、合計36人が宿泊できます。各部屋にはベットがあり、1階には共用のホールやお風呂があり、敷地内の炊飯棟、野外炉でバーベキューも楽しめます。団体貸切、オクシズ観光のベースキャンプ、研修や環境教育など、いろんな活用ができます。ハイキングをしたり、アスレチックをしたり、自然の中で過ごす休日を楽しむ分、楽しみましょう。



ログハウス

ロフト付7棟、平屋8棟の2つのタイプが15棟あります。定員はおおよそ6名です。キッチンには水道、ガスコンロ、ユニットバスを完備。ガスヒーターと電気カーペットも用意してありますので、快適に過ごせます。部屋にはマット、毛布、枕も用意してあります。(レンタルシーツ有200円) 冷蔵庫、まな板、包丁、やかん、洗剤など炊飯用具も用意してあります。マイナスイオンたっぷりの森のなかで家族や仲間と癒されてみませんか？



キャンプサイト

大型常設テントがエリアごとに分かれて35張、持ち込みテント用のフリーサイトが30サイトあります。ほかに炊飯棟2棟、野外炉が完備されています。夜は各ポイントに点在する常夜灯が灯りますが、基本的に照明は満天の星空と月明かりだけ。フリーサイトはテント持ち込みのお客様用で、水はけの良い作りになっています。2010年度よりパイオトイレを近くに設置し、環境にも配慮しています。炊飯棟では雨天時でもかまどを使用できます。ゆっくりと流れる空間の中で森を歩いてみませんか？

■利用料金

ロッジ宿泊室	6人部屋	1室1泊につき	3,900円
	4人部屋	1室1泊につき	2,750円
ログハウス	ロフト付(C)	1棟1泊につき	10,250円
	ロフト無(A)	1棟1泊につき	8,200円
常設テント場	1張1泊につき		1,200円
持込テント場	1区画1泊につき		700円
寝袋	1個1泊につき		200円
毛布	1枚1泊につき		100円
鉄板	1枚1泊につき		100円
電気炊飯器	1個1泊につき		200円
薪代	炊飯用	1束	200円
	キャンプファイヤー	1回	5,000円
ガス自販機	ロッジ炊飯棟備付け		100円コインで25分間使用可
木工教室	材料費		実費負担

ご利用にあたって

冬季は営業をお休みしています。ログハウスにはバス・トイレのほか、台所(ガスコンロ付)やAC電源があります。また就寝用マットレスのほか、ガスヒーター等暖房完備です。屋外での直火は禁止となっています。バーベキューセットなどをお持ちいただきご利用ください。寝袋、食糧、炊事道具等をご持参ください。備え付け以外のものをご利用される場合は有料となります。

営業日/4月第3土曜日～11月第3土曜日 冬季休業 定休日/火曜日(ただし7・8月は無休) チェックイン/13:00 チェックアウト/10:00

予約・お問い合わせ 県民の森管理棟 TEL.054-260-2214 営業時間9:00～16:00 ※県民の森管理棟にて利用希望日の6ヶ月前から受付しています。

10 リバウエル井川スキー場。ゲレンデデビューするならここ。



大自然にほのぼののゲレンデ。南アルプスに向かって思いっきり滑ろう！

井川湖を眼下に眺めながら、富士山を背にして、南アルプスに向かって滑る360度の絶景パノラマ。こんなゲレンデは全国でもここだけ!!

標高1,400mに位置する市営のスキー場です。ゆるやかなゲレンデは、初心者にぴったり。南アルプス・富士山・井川湖などの眺望を楽しむことができ、お天気がよければ、はるか向こうに駿河湾も望めます。お子様に大人気のそりゲレンデもあり、冬の井川の自然をご家族みんなで楽しめる施設です。2011年、「夏でも本格スキーができちゃう!」夏ゲレンデがオープンしました。ノルディックウォーキングやパラグライダーなどのイベントも開催しています。

スキーシーズン 冬季 利用案内

◆営業時間

駐車場利用 8:00～17:00
リフト運転 8:30～16:00
レストラン 10:00～16:00

◆ゲレンデ情報

スキーゲレンデ/滑走距離約300m、幅約130m ※スノーボード終日滑走可
そり専用ゲレンデ/滑走距離約50m、幅約20m ※スキー&スノーボード滑走不可
スキーゲレンデ/ベルトコンベア式リフト(1基)、定員80人、長さ230m
そり専用ゲレンデ/ベルトコンベア式リフト(1基)、定員50人、長さ50m

◆施設使用料

駐車場/普通車 520円、大型車 4,190円(収容台数:普通車300台)
リフト/15歳以上 1,020円(一日)、3歳以上15歳未満 300円(一日)
レンタル/スキーセット 大人 2,500円(一日)、小人 1,500円(一日)
スノーボードセット 大人 6,500円(一日) ※子ども用はありません。
そり 500円(2時間)、スノーチュービング 700円(2時間)、幼児用スキー 500円(2時間)

◆その他の設備

レストラン(115席)、更衣室、トイレ、コインロッカー(200人分)



スキーシーズン 夏季 利用案内

◆営業時間

駐車場利用 8:00～17:00
リフト運転 8:30～16:00
レストラン 10:00～16:00

◆ゲレンデ情報

夏スキーゲレンデ/滑走距離約200m、幅約16m
夏スキーゲレンデ/ベルトコンベア式リフト 長さ230m、1基、定員80人

◆施設使用料

駐車場/冬季以外無料(収容台数:普通車300台)
リフト/15歳以上 1,020円(一日)、3歳以上15歳未満 300円(一日)
レンタル/スキーセット 大人 2,500円(一日)、小人 1,500円(一日)
マウンテンカート 500円(1時間)

◆その他の設備

レストラン(115席)、更衣室、トイレ、コインロッカー(200人分)



新たな名所?! てしゃまんく・とくせいばあ

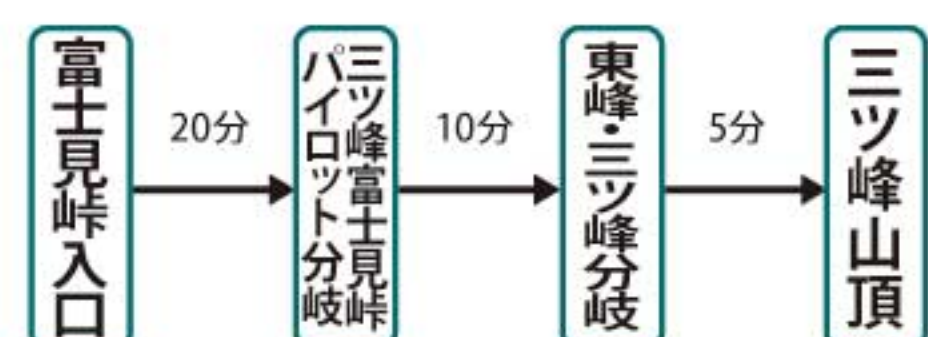
2012年10月7日に誕生した、リバウエル井川スキー場のニュースポット!! 井川の振興策や活性化策を次世代を担う若者たちが考えるイベント「若者トーク・フォーラム」の中で制作されたオブジェです。静岡市出身の漫画家「しりあがり寿」さんをはじめ、「白根ゆたんぼ」さん、「朝倉世界一」さん、「なんきん」さんらアーティストの指導のもと、フォーラムに参加した大学生たちが、井川に残る伝説の人物「てしゃまんく」と「とくせいばあ」をイメージして制作したものです。大自然の中に突如現れる圧倒的な存在感。ぜひ一度、ご覧ください。





富士見峠 三ツ峰コース

富士見峠から1時間で歩けるファミリーコースです。高低差があまりないため、ハイキング感覚で自然のままの森を味わうことができます。三ツ峰山頂(1,350m)からは、天気によければ駿河湾や静岡市街を望むことができます。



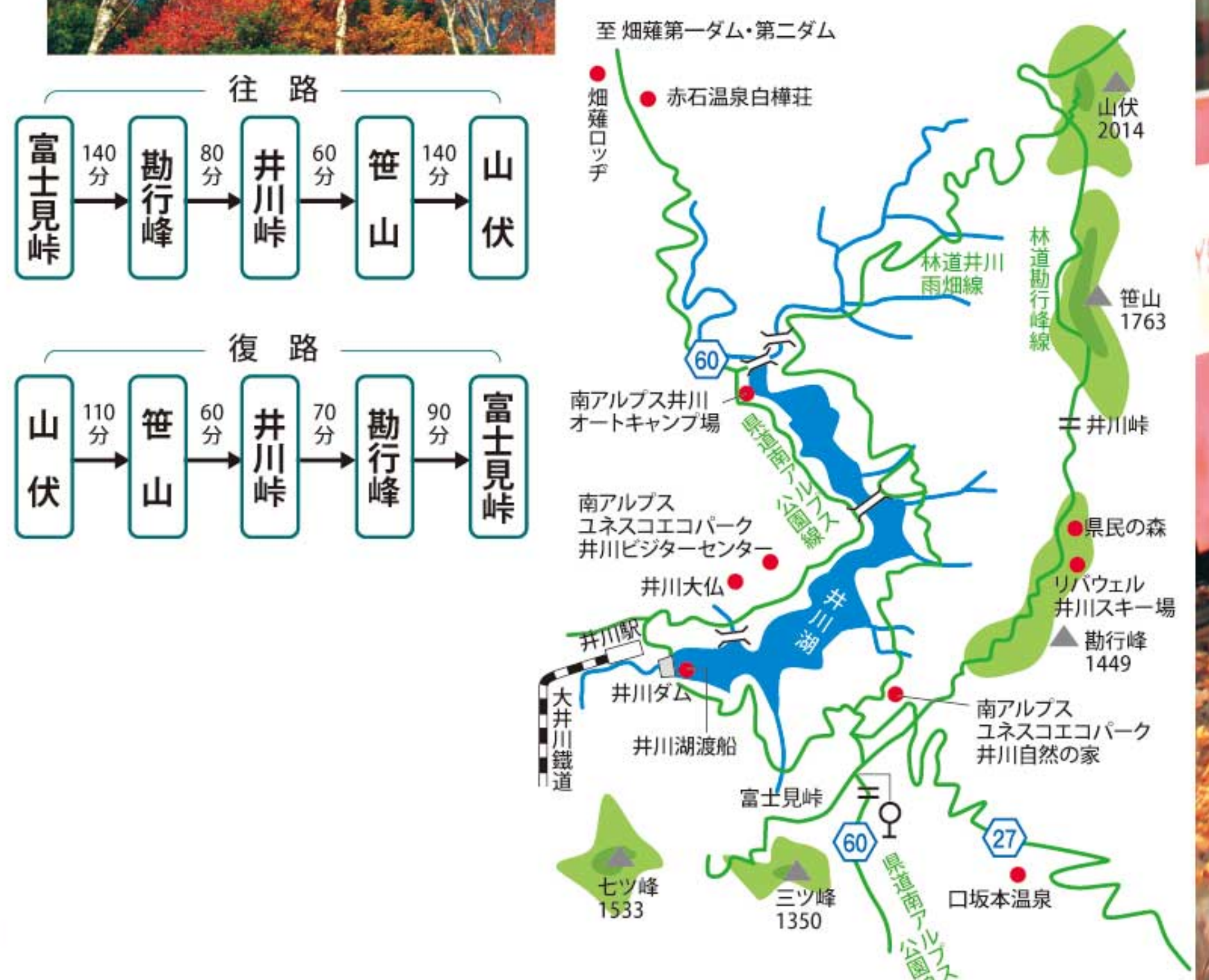
井川高原自然歩道

富士見峠から稜線沿いに整備された山道を歩くコースです。右に富士山、左に南アルプスを見ながら、起伏も少なく快適に歩くことができます。途中、復元されたお茶蔵のあるピクニック広場、大日峠を抜けて勤行峰まで約2時間のコースです。勤行峰からは南アルプス主峰の山々が手に取るように見渡せます。



県民の森から井川峠を抜けて 笹山、山伏へ

県民の森から井川峠にかけて原生林の中を歩き笹山へと向かいます。笹山からは富士山が一望でき、眼下には井川湖が見下ろせます。山伏の山頂は安倍奥の最高峰にふさわしい展望が望めます。また、富士山を背景に夏に開花するヤナギランも多くのハイカーの目を楽しませてくれます。



11

森林浴にでかけよう！
自然とふれあいながら、井川の森で過ごす休日。

富士見峠からはじまる井川高原自然歩道。大日峠からリバウェル井川スキー場の見える勤行峰。県民の森から井川峠、笹山を抜けて、安倍川水系最高峰の山伏へ。南アルプスと富士山と井川湖が一望できる稜線には、いろんなハイキングコースが整備されています。時にはぶらり井川の森のお散歩。体力と時間に合わせてもうちょっと欲張ったコース選び。自然とふれあいながら、思いっきり森林浴を楽しみましょう。



大井川鉄道井川駅。駅に着いたらどこ行こうかな…。今日はお天気もいいし、帰りの便まで時間もあるし…。少し井川の里を歩いてみようかな。そういえば、駅前に井川中学校の生徒さんたちが作った観光案内があった。今日はそのお勧めスポットをまわってみよう。何か新しい発見もあるかも…。のんびり里山の休日散歩。ゆるやかな時間が流れる中で、明日の元気を思いっきり充電して帰ろう。

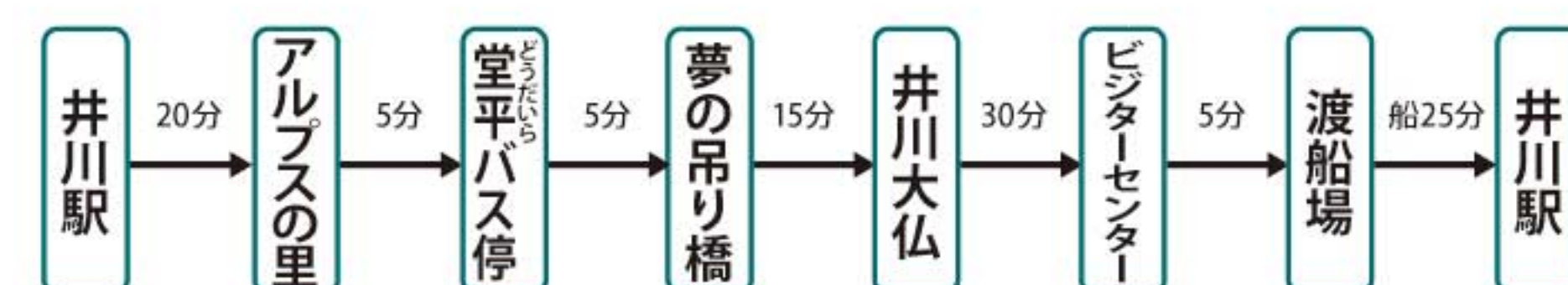
12

人、そして歴史文化との出会い。
井川湖畔にたたずむ癒しの里をめぐる休日。



井川湖畔自然歩道

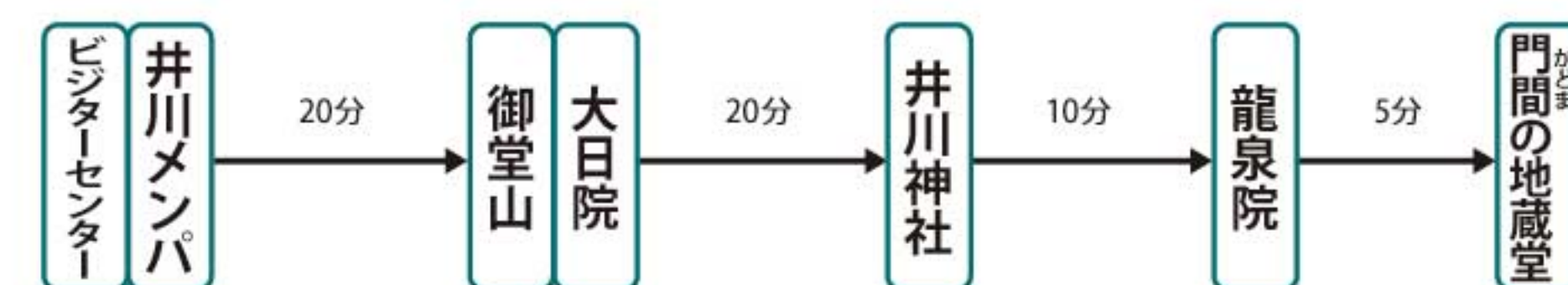
堂平から夢の吊橋を渡り、坂を上っていくと井川大仏の参道が見えてきます。井川大仏は1980(昭和55)年に開眼・供養された真っ白な大仏様。「健康の根源は一本一本の歯を大切にすることにある」という哲学を持ち、僻地治療に奉仕された元井川診療所の佐藤平一郎先生が、60余年間の健康に感謝の意をこめて、夫人と共に4年の歳月をかけて建立されました。大仏様をお参りしたら、南アルプスコネスコエコパーク井川ビジターセンターまで歩いてみましょう。ここから井川本村渡船場まで徒歩5分。井川ダムまでの湖上遊覧を楽しんでみませんか。



もう少し時間があれば

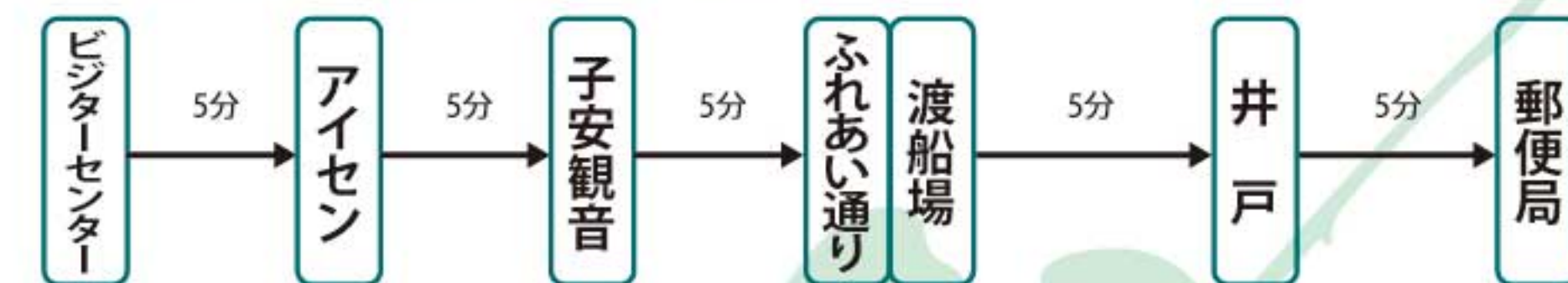
神社仏閣コースにでかけよう！

ビジターセンターとなりには井川で一軒だけのメンバ屋さんがあります。ユニークなおばあちゃんのお話もぜひ聞いてみて。今も昔から伝わる48の工程でメンバは作られます。その工程によって見学できない日もありますのでご了承ください。メンバ屋さんの次は、一刃彫り等身大の千手観音立像が奉られている中野(御堂山)観音堂へ。すぐ上に大日古道の石仏や大日如来が奉られている大日院があります。ここから来た道を戻り井川小学校脇の参道を登って井川神社へ。さらに足を伸ばせば龍泉院も訪ねてみましょう。井川の暮らしと出会う約1時間のコースです。



レトロな「ふれあい通り」を歩く 本村探訪コースも楽しめます！

湖面の輝き、渡ってくる心地よい風を感じながら湖畔に佇む井川の街並みの中を歩いてみましょう。どこか懐かし、地元の方々が集まってくるふれあい通りは、井川の本村探訪コース。食料品から生活雑貨、葉。ほとんどの生活用品はここで間に合います。ここでしか買えない「てしゃまんく最中」もお勧め。そこから少し上がると井戸があります。昔から枯れることのない湧き水で大根を洗うおばあちゃんの姿に郷愁を覚えます。さらに石段を上っていくと茶畑と井川湖を望む高台に井川郵便局があります。旅の終わりに手紙をしたためてみてはいかがでしょうか？





13 高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性 南アルプスユネスコエコパーク

静岡市の最北に位置する南アルプスは、静岡、山梨、長野の3県10市町村に跨り、3,000m級の山々を有する日本有数の山岳地帯として、豊かな自然環境を育み、その恵みをすべての市民に与える、自然・人・文化・経済の源です。平成26年6月、南アルプスの自然環境と、共に歩んできた地域の歴史・文化などが世界に認められ、ユネスコエコパークに登録されました。この登録により、本市に新たな宝が生まれたと同時に、世界レベルの自然環境とそこで育まれた地域資源のすばらしさ・価値を将来に受け継いでいく責務を担うことになりました。南アルプス、井川の自然が市民の豊かな心を育み、自然がもたらす恵みに感謝することで、人と自然が共に歩むことのできる持続的な地域社会の発展を目指していきます。

ユネスコ エコパークとは…

ユネスコエコパークとは、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が実施する「人間と生物圏計画(MAB:Man and the Biosphere Programme)」に基づく制度により、豊かな自然環境と、その自然と向き合い、受け継がれてきた地域の文化を守りながら、地域社会の発展を目指しているとして、国際的に認められた保護地域です。
2015年6月現在、世界では120カ国、651地域が登録されています。国内では、1980(昭和55)年に白山(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、大台ヶ原・大峯山(奈良県、三重県)、志賀高原(群馬県、長野県)、屋久島(鹿児島県)の4地域が登録され、2012(平成24)年には、国内では32年ぶりに綾(宮崎県)、只見(福島県)、志賀高原(エリア拡張)が登録されました。



日本のユネスコエコパーク

ユネスコエコパークに 求められるもの…

自然と人との共生を目指すユネスコエコパークでは、豊かな自然を守りながら、その自然の恵みに感謝し、これを活かし、歴史や文化を育んできた人々の暮らしも受け継いでいくことが必要です。そのため、次の3つの機能が求められます。

生物多様性の 保全の機能

多種多様な動植物、自然、景観により形成される生物多様性が存在し、これが維持されていること。

3つの機能が互いに影響し合い、それぞれの機能を高めていきます。

学術的研究支援 の機能

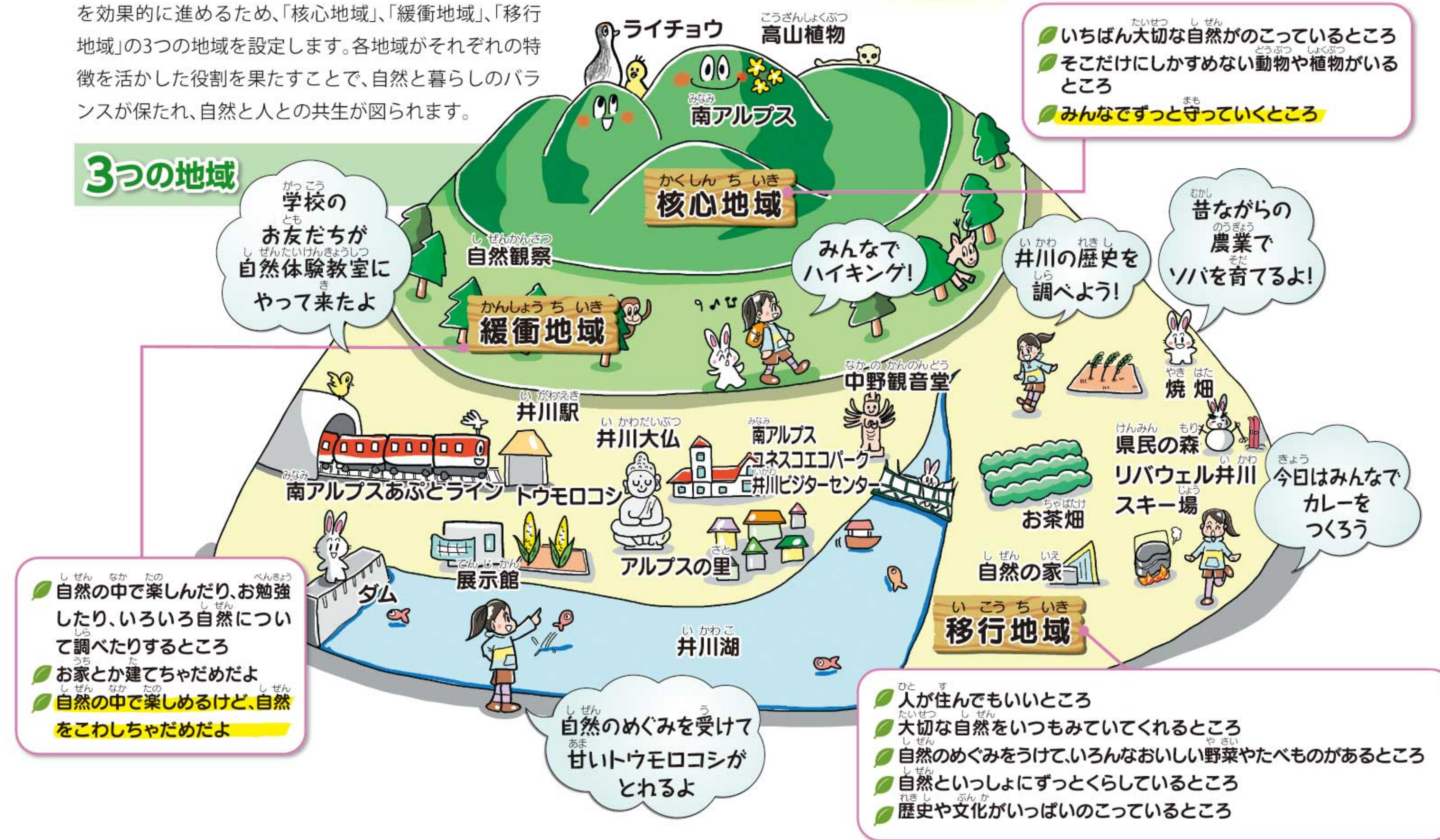
生物多様性を保全するための調査や研究が行われ、自然や歴史文化に関する環境教育、研修等の場があること。

経済と社会の 発展の機能

自然環境や地域の文化等を活かした取組により、地域社会の持続的な発展が促進されていること。

自然と暮らしのバランスを保つ 3つのエリア…

自然環境の保全から地域振興まで、多岐にわたる取組みを効果的に進めるため、「核心地域」、「緩衝地域」、「移行地域」の3つの地域を設定します。各地域がそれぞれの特徴を活かした役割を果たすことで、自然と暮らしのバランスが保たれ、自然と人との共生が図られます。



10の市町村が ユネスコエコパークとして結束…

南アルプスユネスコエコパークは、南アルプスに関する10市町村に跨っており、静岡市では、南アルプスの間ノ岳から麓の井川地域がエリアとなっています。
10市町村では、南アルプスユネスコエコパークを「高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性」と表現しています。南アルプスの自然と文化を共有の財産と位置づけ、優れた自然環境の永続的な保全と持続可能な活用に共同で取り組むことを通じて、地域間交流を拡大し、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを目指しています。

静岡市では、平成27年3月に、静岡市が目指す南アルプスユネスコエコパークのあり方と方向性を示した「南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画(静岡市域版)」を策定しています。

※静岡県:静岡市、川根本町 山梨県:韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町 長野県:飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村

登録面積	エリア別
総面積302,474ha (うち静岡市48,603ha)	核心地域 24,970ha (うち、静岡市 3,051ha) 緩衝地域 72,389ha (うち、静岡市 6,171ha) 移行地域 205,115ha (うち、静岡市 39,381ha)

14 南アルプスの自然～地形・地質、生態系・生物多様性～

自然の宝庫、南アルプスの魅力。 静かなる森、残された日本の秘境。

南アルプスは赤石山脈とも呼ばれ、甲斐駒・鳳凰、白根、赤石の3つの大山系によって構成されています。また、東に糸魚川―静岡構造線、西に中央構造線という2つの大きな断層があり、3,000m級の山々が13座連なる姿は、中央アルプス、北アルプスとともに日本アルプスを構成し、日本の屋根とも呼ばれています。このような南アルプスの姿はどのようにしてできたのでしょうか。その生い立ちを探っていくと、南アルプスの地形や地質には、日本列島の誕生に関わる地史が刻み込まれています。また、氷河時代と深い関わりを持つ動植物や、南アルプスと限られた地域にのみ生育する植物なども多くみられます。そして、深い森林と渓谷に覆われた大井川源流部は日本の秘境100選にも選ばれました。

森林植生

南アルプスは日本列島のほぼ中央に位置し、3,000m級の山々が南北に連なっています。南アルプスは、年間3,000mmの降水量がある多雨地域で、暖帯(800m未満)から寒帯(2,600m以上)まで幅広い気候帯を持つとともに、森林限界の標高は高く、暖帯から寒帯までの垂直分布の特徴がよく表れています。南アルプスの温帯(800m以上)から亜寒帯(1,600m以上)までの森林植生は、大きく五つの特徴に分けることができます。

① 落葉広葉樹林(ブナ林)

標高800～1,600mに存在します。この標高の範囲は古くからの伐採によって原生林はほとんど失われていて、現在では寸又川流域の一部にわずかに残されているに過ぎません。

② 混交林(ツガ・ウラジロモミ林)

落葉広葉樹林の森林の中に、ツガやウラジロモミなどの常緑針葉樹が混ざって生育している林です。混交林の原生林は多くが伐採によって失われており、寸又川流域や三峰川、野呂川等の流域に残るだけとなっています。うち寸又川流域には約8,300haにおよび広大な原生林が残されていて、原生自然環境保全地域となっています。

③ コメツガ・ウラジロモミ林

標高1,600～1,800m付近で見られます。落葉広葉樹は少なく、常緑針葉樹のコメツガの密度が非常に高いのが特徴となっています。

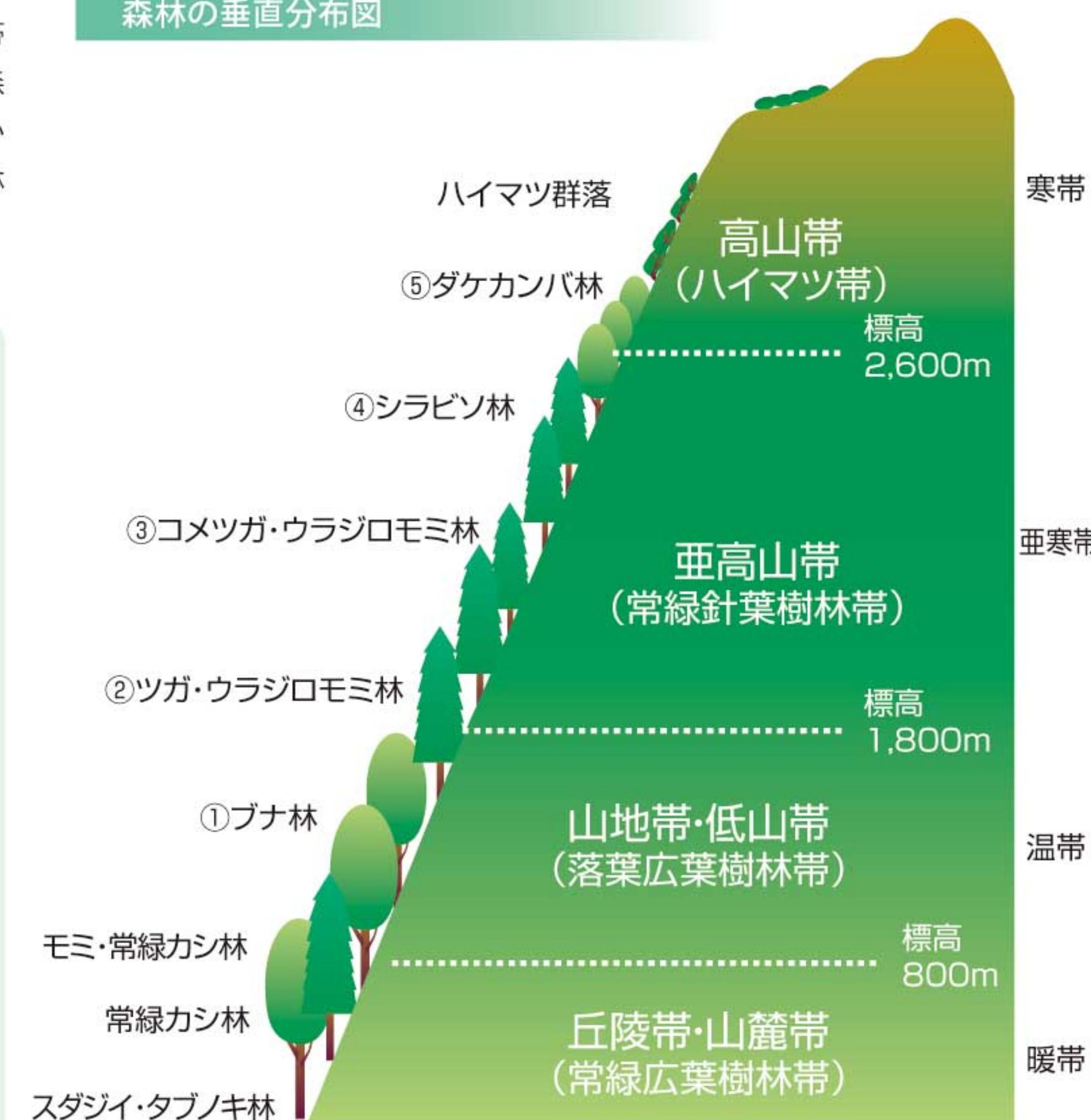
④ シラビソ林

標高1,800～2,600mの範囲には、シラビソ林が広がっていて、南アルプス亜高山帯の景観を形作っています。特に大井川源流部の東俣や西俣の地域ではシラビソの密度の高い森林が多くなっています。

⑤ ダケカンバ林

標高2,600～2,800mの範囲には、深緑のシラビソ林の上に、明るい緑色をした森林が帯のように茂っています。これがダケカンバ林であり、この森林の上限は森林限界となっています。

森林の垂直分布図



南アルプスでは、標高2,600m以上に高山帯が広がります。

◆南アルプスの生い立ち(南アルプスの山頂で海の生物が見つかる理由)

南アルプスの地層からは放散虫(ほうさんちゅう)という海の生物の化石が見つかります。南アルプスの高地から海の痕跡が見つかるのはなぜでしょうか。南アルプス主要部分の赤石層群、白根層群、寸又川層群などの地層がつくる四万十帯(しまんとたい)は、大部分が砂岩と泥岩が交互に層を作り、枕状溶岩やチャートがみられます。この泥岩やチャートの中から、遠洋性生物の放散虫の化石が見つかることがあります。四万十帯に見られる地層は大陸から流されてきた土砂が海底に堆積してできたと考えられています。これが繰り返されることで砂岩と泥岩とが交互に重なる地層となり、この時に海の生物の死骸も一緒に堆積したと考えられます。この地層が持つさまざまな特徴を研究してきた結果、現在では南アルプスの地層は、1億年前から2,000万年前頃までの間に、海の中で作られたと考えられています。



◆今も高くなりつづける南アルプス

南アルプスの本格的な隆起は、およそ100万年前から起こったと考えられています。最近70年間の測地測量データでは、年間4mm程度の速さで隆起していて、この速さは世界トップレベルと言われています。また、その作用にともなって、山地が削られていく速度も世界有数です。山脈のいたるところで大規模な崩壊が進んでいて、南アルプスやその周辺で見られる「ナギ」や「クズレ」が付く地名は、崩壊地であることに由来しています。



◆氷河が南アルプスに及ぼした影響

地球が生まれた46億年前からこれまで、何回もの大きな氷河期がありました。南アルプスの現在の地形等に大きな影響を及ぼしたのは、7万年前に始まり1万年前まで続いた最終氷期期であると考えられています。この最終氷期には日本列島の高地において山岳氷河が発達しました。この氷河により形成された氷河地形は、日高山地や中部山岳地域で観察することができますが、氷河地形が残る日本の南限は南アルプスです。氷河地形のうち、氷河周辺の特に関心される周氷河地形は、南アルプスでも多数確認できます。その中でも、茶臼岳から上河内岳へと向かう途中の亀甲状土は南アルプスを代表する周氷河地形です。この地形は、地中の水分が凍結や融解を繰り返すことによって形成されました。ここは茶臼のお花畑としても登山者の目を楽しませてくれます。



◆魅力的な高山植物

高山植物は、森林限界より高い高山帯に生育する植物を指し、かつて氷河期に勢力を広げた寒地の植物の未裔とされています。高山に生きる植物は冷涼な気候に適応し、生育する環境は強風や乾燥、岩場、崩壊地など厳しい環境の中で生育しています。南アルプスに生育する高山植物の分布を見てみると、タカネマンテマやムカゴユキノシタのように極端な隔離分布となっている氷河期の遺物のような植物をはじめ、多くの高山植物の生育地の南限となっています。



ハイマツ

タカネビランジ

◆世界の南限に住むライチョウ

ライチョウ科の鳥は北半球の温帯から亜寒帯、寒帯にかけて広く分布していて、日本には、ニホンライチョウとエゾライチョウの2種類が生息しています。ニホンライチョウは、本州中部の高山帯に限って分布している日本固有亜種です。ニホンライチョウは氷河期に分布が広がり、その後、氷河が退いたときに日本の高山に残り分化が進んだと考えられる氷河期の遺存種です。ライチョウの種としての生息域は日本が最も南であり、さらに南アルプスが世界の南限となる生息場所となっています。



周北極植物

今から約2万年前をピークとする最終氷期には今の日本の年平均気温より7～9℃も低く、北海道は大陸と陸続きでした。この時代、寒冷な気候に生活していた大陸の植物が日本に南下してきました。その後、気温も上がり後氷河期になると、これらの植物は、再び寒冷な気候を求めて移動し、現在、高山の山頂域などに孤立し分布しています。



タカネマンテマ



ムカゴユキノシタ



チョウノスケソウ



ムカゴトラノオ



キタダケソウ

15 南アルプス・大井川源流部・山小屋 南アルプス・大井川源流部 散策ガイドマップ



南アルプス登山小屋の紹介 (平成27年6月現在)

<p>静岡市営 熊の平小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～9月下旬 収容人数:70人 料 金:1泊2食(寝具込)9,000円/素泊(寝具込)6,000円/ 幕営600円(25張) ※10人以上要予約</p>	<p>静岡県営 小内河内岳避難小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～8月下旬 収容人数:10人 料 金:素泊(寝具込)6,000円/寝具500円/軽食あり/ トイレ有料</p>
<p>静岡市営 高山裏避難小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～8月下旬 収容人数:20人 料 金:素泊5,500円/寝具500円/軽食あり/ 幕営600円(20張)</p>	<p>静岡県営 荒川中岳避難小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～9月下旬 収容人数:20人 料 金:素泊(寝具込)6,000円/寝具500円/軽食あり/ トイレ有料</p>
<p>静岡県営 千枚小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～10月上旬 収容人数:100人 料 金:1泊2食(寝具込)9,000円/素泊(寝具込)6,000円/ 寝具500円/トイレ有料/幕営600円(30張)</p>	<p>二軒小屋ロッジ ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:4月下旬～11月上旬 収容人数:24人 料 金:13,000円(割引期間あり12,000円) ※要予約 別途新館(別料金)もあります。</p>
<p>静岡県営 荒川小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～10月上旬 収容人数(100人) 料 金:1泊2食(寝具込)9,000円/素泊(寝具込)6,000円/ 寝具500円/トイレ有料/幕営600円(30張)</p>	<p>静岡県営 赤石岳避難小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～9月下旬 収容人数:30人 料 金:素泊5,500円/寝具500円/軽食あり/トイレ有料</p>
<p>静岡県営 赤石小屋 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～10月上旬 収容人数:100人 料 金:1泊2食(寝具込)9,000円/素泊(寝具込)6,000円/ 寝具500円/トイレ有料/幕営600円(15張) ※10人以上要予約</p>	<p>静岡市営 百間洞山の家 ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:7月中旬～9月中旬 収容人数:60人 料 金:1泊2食(寝具込)9,000円/素泊(寝具込)6,000円/ 寝具500円/幕営600円(20張) ※10人以上要予約</p>
<p>静岡県営 聖平小屋 ☎054-260-2377 井川観光協会 営業期間:7月中旬～9月下旬 収容人数:120人 料 金:1泊2食(寝具込)8,500円/素泊(寝具込)5,500円/ 寝具持参は1,000円引き/幕営500円(90張)</p>	<p>榎島ロッジ ☎0547-46-4717 (株)特種東海フォレスト観光チーム 営業期間:4月下旬～11月中旬 収容人数:180人 料 金:9,000円(割引期間あり8,000円) 登山小屋素泊(定員20人)4,500円(寝具500円) ※入浴料込</p>
<p>静岡県営 茶臼小屋 ☎054-260-2377 井川観光協会 営業期間:7月中旬～9月下旬 収容人数:60人 料 金:1泊2食(寝具込)8,500円/素泊(寝具込)5,500円/ 寝具持参は1,000円引き/幕営500円(45張)</p>	<p>静岡県営 横窪沢小屋 ☎054-260-2377 井川観光協会 営業期間:7月中旬～8月下旬 収容人数(60人) 料 金:1泊2食(寝具込)8,500円/素泊(寝具込)5,500円/ 寝具持参は1,000円引き/幕営500円(60張)</p>
<p>静岡市営 ウソッコ沢小屋 ☎054-260-2377 井川観光協会 営業期間:通年(無人) 収容人数:30人 料 金:無料 幕営無料(7張)</p>	<p>静岡県営 光小屋(榛原郡川根本町) ☎0547-58-7077 川根本町商工観光課 営業期間:7/中旬～9/中旬 収容人数:40人 料 金:素泊3,000円 ※6,000円/幕営400円(10張) ※食事は50歳以上3人以下のグループで15時まで(小屋着(現地申込))</p>

※山小屋の利用料金等は一部変更されている場合がありますのでご確認ください。

二軒小屋周辺

7 田代湖
8 転付峠

二軒小屋周辺コース
(約30分)
二軒小屋 ↔ 田代湖

転付峠コース
登り:2時間
下り:1時間30分
二軒小屋 ↔ 転付峠

9 二軒小屋ロッジ・登山小屋

登山、釣り、周辺散策、目的にあわせて楽しめます。地の食材を使った料理と真っ赤に染まる紅葉も自慢です。伝付峠からは富士山や南アルプス南部の大展望を手にすることができます。

至千枚岳
至赤石岳
至二軒小屋
至転付峠

榎島周辺

10 牛首峠
11 榎島ロッジ / 南アルプス自然ふれあいセンター
12 鳥森山

榎島周辺コース(約45分)
榎島 → 千古の滝 → 牛首峠 → 鳥森山 → 榎島

鳥森山コース
登り:1時間45分
下り:1時間15分
榎島 ↔ 鳥森山

榎島ロッジに隣接。山岳写真などの資料展示、榎島ロッジ宿泊者を対象とする登山指導や自然観察教室も実施しています。また、登山者の避難救助基地としての役割も果たしています。

至千古の滝
至赤石岳
至二軒小屋
至鳥ヶ岳
至鳥森山

登山のマナー～素晴らしい自然をいつまでも～

愛するものへの優しさは、人にはもちろんのこと、山やそこに生きる動植物などの自然に対しても同じです。山を愛する私たち登山者は、誰も自然を傷つけようとしている訳ではありません。だけど、ちょっとした、なにげない行動が、太古の昔から厳しい環境のなかを生き抜いてきた自然に対し、永久に取り戻すことのできないダメージを与えてしまうのです。この素晴らしい自然を私たちの子孫に残すため、この繊細な自然に影響を及ぼさないようマナーを守って行動しましょう。

南アルプスカントリーコード ～登山者の皆様へお願い～

- 動植物を採らない 傷つけない
- 登山道はずれない
- ペットは持ちこまない
- ストック先端に ゴムキャップをつける
- ゴミは必ず持ち帰る
- 岩などへ 落書きはしない
- 山小屋などの施設を きれいに利用する

16 イベント・宿泊・交通案内

EVENT

1月
1月1日 小河内のヒヨンドリ
 小河内集落内
 元旦の早朝、イセソーホーなる人物が曲物の技術とともに伝えたとされる独特の節回しによる歌が歌われます。年の初めに火伏(火による災いを防ぐ)をし、一年の安泰を願う行事です。(静岡市地域登録文化財)
1月6日 中野(御堂山)観音堂のお籠り
 中野観音堂
 一年に一度、御本尊である千手観音立像(静岡県指定有形文化財)が御開帳される日です。参詣者には芋田楽が振舞われます。

主催: ひよんどり保存会
 問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

2月
2月上旬 雪まつり
 リバウェル井川スキー場
 雪上ボーリングをはじめ、家族で楽しめるイベントが盛りだくさんです。

問合せ: リバウェル井川スキー場
 電話: 054-260-2316

4月
4月3日 井川神社例祭
 井川神社
 春を迎えるお祭りです。神楽を奉納し、神様を迎えます。
4月29日 赤石温泉まつり
 南アルプス赤石温泉白樺荘
 井川の地場産品が販売され、餅つき大会やあまごの塩焼きが楽しめます。

問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

問合せ: 南アルプス赤石温泉白樺荘
 電話: 054-260-2021

7月
7月中旬 南アルプス山開き
 畑種第一ダム
 登山者の安全祈願と遭難者の追悼を行います。また、井川小学校の子どもたちがアルペンホルンを奏でます。

主催: 井川観光協会・井川山岳会
 問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

8月
8月26日・27日 ヤマメ祭り
 田代諏訪神社
 「ヤマメズシ」が作られ、奉納されます。材料となる粟は焼畑により栽培され、ヤマメは明神谷という神聖な谷で釣られます。山村の生活文化を象徴する貴重なお祭りです。(静岡県指定無形民俗文化財)

主催: 田代諏訪神社
 問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

9月
9月中旬 あまご祭り
 あまごの里
 釣り大会やあまごの掴み取り、フィッシングスクールが開催されます。

問合せ: 井川漁業協同組合
 電話: 054-260-2519

10月
10月中旬 井川もみじマラソン
 スタート/リバウェル井川スキー場
 富士山の雪景色を眺めながら、紅葉まっかりの井川を満喫できるマラソンです。
10月下旬 井川大仏秋の例祭
 井川大仏
 井川大仏は、井川診療所の歯科医が4年の歳月をかけて建立した大仏です。例祭では、福引や餅まきも行われます。(高さ11m、昭和55年11月に開眼)
10月下旬 駿府お茶壺道中行列
 井川〜久能山東照宮
 徳川家康が、井川で保管したお茶を駿府城に運ばせお茶会を開いたという故事にちなみ、井川から久能山東照宮までお茶壺が運ばれます。

問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

問合せ: 駿府本山お茶まつり委員会事務局
 電話: 054-288-8440

11月
11月3日 井川神社例祭 井川ダム祭り
 井川神社
 井川神社の秋の例祭です。朝市が開催され井川神社では神楽が奉納されます。

問合せ: 井川観光協会
 電話: 054-260-2377

ほかにも楽しいイベントがたくさんあります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

井川方面への交通案内



- 車** 東名:静岡インターから井川本村まで約2時間15分
 新東名:新静岡インターから井川本村まで約1時間30分
- 電車** JR静岡駅からJR金谷駅まで約30分
 JR金谷駅から大井川鉄道井川駅まで約3時間

井川地区自主運行バス(てんしゃまんくん)

井川地区への生活交通の足の確保を図るために、平成20(2008)年6月より井川地区自主運行バスの運行をしています。
【ご注意】このバスは、井川地区住民の生活交通(通院・買物等)の確保を主な目的としています。普通乗用車両で運行しているため、定員は9名であり、荷物用の積載スペースはありません。また、気象状況等やむを得ない場合は運行を休止する場合があります。運行状況等の確認につきましては下記問い合わせ先までご連絡ください。

【井川地区自主運行バス停留所】
 白樺荘・小河内・田代・北小跡入口・大島・中山・井川大橋・診療所・渡船場・南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター・中野・井川本村・井川中学校入口・公民館前・西山平・井川駅前(※大井川鐵道)・南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家・大日・富士見峠・横沢

井川地区自主運行バス管理事務所
 電話:054-260-1501



宿泊施設のご案内

平成27年9月現在の消費税抜の料金です。中学生以上は大人料金となり、大人のみ別途入湯税150円がかかります。料金は一部変更されている場合がありますのでご確認ください。

大西屋旅館
 地元産の素材を活かしたイタリアンと和食をベースにした創作料理が味わえます。ソムリエの資格を持つ若女将からワインのお話しも聞けますよ。
 料金: 大人9,000円~12,000円(料理内容による)
 子ども/大人料金の70%
 部屋数: 11室 収容人数/30人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川1780-1
TEL:054-260-2009

観水荘
 食事には、四季おきの山菜料理がずらりと並び、自慢の一品です。笑顔の素敵な女将さんと神楽の笛、太鼓の名手である旦那さんの明るい笑顔です。
 料金: 大人/8,000円
 子ども/6,000円
 部屋数: 9室 収容人数/35人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川1617
TEL:054-260-2008

喜久屋旅館
 喜久屋の「ヤマメのほう素焼き」は来たらず必ず食べて欲しい自慢の一品です。笑顔の素敵な女将さんと神楽の笛、太鼓の名手である旦那さんの明るい笑顔です。
 料金: 大人/8,000円
 子ども/6,000円
 部屋数: 7室 収容人数/25人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川11072
TEL:054-260-2017

峯屋
 女将さんの田舎料理と若女将の若者向け料理はどちらも絶品!家族みんなのおでなしが温かい、家族的な宿です。
 料金: 大人/8,000円
 子ども/6,000円
 部屋数: 6室 収容人数/15人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川1688
TEL:054-260-2048

中野屋
 山菜、山肉を使ったおふろの味と長年使われた罫煎裏が心を和ませてくれます。とってもアットホームな宿です。
 料金: 大人/7,000円
 子ども/5,000円
 部屋数: 6室 収容人数/12人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川11047
TEL:054-260-2138

民宿みゆき
 天然薬草風呂でほかにあった後は薬草を使った薬膳料理が楽しめます。心も体も癒してくれる宿です。
 料金: 大人/6,500円
 子ども/5,000円
 部屋数: 12室 収容人数/35人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川1748
TEL:054-260-2417

民宿やまいち
 「チヨナがや」された独特の柱で作られた田舎作りの民宿です。やまいちの赤石鍋と手作りギョーザは絶品!自慢の料理です。
 料金: 大人/6,500円
 子ども/5,500円
 部屋数: 5室 収容人数/15人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区井川1520
TEL:054-260-2148

民宿ふるさと
 狐師をしている御主人の鹿肉・猪肉料理はやみつきになってしまうおいしきです。食事の後は温泉につかってゆっくりくつろいでください。
 料金: 大人/6,500円+150円(入湯税)
 子ども/5,500円
 部屋数: 7室 収容人数/20人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区田代678
TEL:054-260-2858

南アルプス赤石温泉 白樺荘
 単独硫黄泉の清らかな湯触りが特徴の天然温泉です。無料体験室や食事・売店も完備しています。
 料金: 中学生以上/4,110円 小学生/2,050円
 部屋数: 10室 収容人数/26人
 食事: 夕/1,850円
 朝/1,030円
 日帰り浴: 中学生以上/510円
 静岡市葵区田代1110-5
TEL:054-260-2021

ロッジウーム
 南アルプスを見ながら旬の料理を味わえます。別棟のログハウスでは、自炊も可能です。
 料金: 一棟貸し8人まで
 25,000円(税込)
 ※食事別
 静岡市葵区井川13282-10
TEL:054-260-2911

元泉館
 口坂本に湧き出る温泉は「元泉館」が源泉です。四季に合わせた山菜料理、川魚料理でもてなしてくれます。
 料金: 大人/7,500円
 子ども/6,500円
 部屋数: 7室 収容人数/20人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区口坂本454
TEL:054-297-2246

民宿やまもと
 「やまもと」からは村一帯を眺めることができます。山菜・川魚料理を味わえます。
 料金: 大人/7,000円
 部屋数: 5室 収容人数/20人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区口坂本427
TEL:054-297-2243

民宿明ヶ島
 緑あふれる自然を眺めながら入浴できます。入浴後は広場でゆったりリラックス。
 料金: 大人/7,500円
 子ども/6,500円
 部屋数: 5室 収容人数/20人
 食事: 朝・夕付き
 静岡市葵区口坂本176
TEL:054-297-2261

登山口までの交通案内

平成27年6月現在の内容です。送迎バス・登山バスの運行状況は一部変更されている場合がありますのでご確認ください。

静岡市から荒川岳、赤石岳、聖岳方面

■駐車場ののご案内
 南アルプスに入山の場合は、畑種第一ダムまで自家用車で行くことができます。それ以北は一般車両通行止の林道(静岡市管理)となりますので、(※特種東海フォレストや井川観光協会の無料送迎バスを利用するか、徒歩となります。また、左図のところに、無料駐車場があります。

井川観光協会送迎車(定員25名)

■宿泊者用無料送迎

井川 → 聖岳登山口
井川 聖岳登山口
6:00 6:10 6:40 6:45 6:50 7:00 8:00
11:30 13:40 13:55 14:00/15:00 15:20 15:30 15:40/15:50 16:00

この送迎車は、大西屋・観水荘・喜久屋・峯屋・中野屋・みゆき・やまいち・ふるさと・白樺荘・口坂本地区の民宿4軒・横窪沢小屋・茶臼小屋・聖平小屋のいずれか1箇所以上にご宿泊(食事付・素泊)の方を対象に、往復無料で運行しています。(テント泊の方は含まれません。)また荒天の場合や林道の状況により、通行を中止する場合があります。

【問い合わせ】送迎車のご利用に際しましては、予約をしてください。電話:080-1560-6309(担当:長嶋) FAX:054-260-2377
【運行期間】7月中旬~9月下旬
 井川観光協会 TEL.080-1560-6309 http://ikawa.ooi-alps.jp/

特種東海フォレスト送迎バス

■宿泊者用無料送迎

乗降地	畑種第一ダム方面(入山)				畑種第一ダム方面(下山)			
期間	畑種第一ダム	聖岳	横島	二軒小屋	横島	聖岳	二軒小屋	畑種第一ダム
7/16	8:00	8:40	9:00	9:30	7:30	8:00	8:00	7:30
8/31	9:10	9:50	10:10	10:30	9:30	10:30	10:30	11:30
(夏期)	12:00	12:40	13:00	13:30	14:30	15:10	15:30	14:00
	14:30	15:10	15:30	16:30	13:30	14:00	14:00	15:00
	15:30	16:10	16:30					
4/29~						6:30	下車のみ	7:30
7/15	8:00	8:40	9:00	9:30	9:30	10:30	10:30	11:30
9/1~	12:00	12:40	13:00	13:30	13:30	14:00	14:00	15:00
営業終了	15:00	15:40	16:00	16:30				

※畑種第一ダムの乗降地は、7月中旬~10月中旬は「畑種夏期臨時駐車場」になります。

このバスは、横島ロッジ及び登山小屋・二軒小屋ロッジ及び登山小屋・小枝小屋・赤石小屋・荒川小屋・百間洞山の家・熊の平小屋・赤石岳避難小屋・中岳避難小屋・高山裏避難小屋・小河内岳避難小屋のいずれか1箇所以上にご宿泊(食事付・素泊)の方を対象に、往復無料で運行しているものです。テント泊のみの行程の方は対象となりません。なお、横島~二軒小屋の区間の送迎は、二軒小屋ロッジに宿泊(1泊2食付、又は素泊まり)される方のみを対象とし、通年予約制です。
 ※荒天の場合や林道の状況により、通行を中止する場合があります。

しずてつジャストライン南アルプス登山線(季節運行)

しずてつジャストライン
 ご予約・新静岡バス案内所 TEL.054-252-0505 (7:30~20:00)
 運行状況・鳥坂営業所 TEL.054-345-3444
 http://www.justline.co.jp/

【運行期間】7月中旬~8月末(毎日運行予定)
 このバスは完全予約制となります。乗車日の前日19時までに必ずご予約ください。
【ご予約方法】インターネット(発車オーライネット)、窓口(新静岡、静岡駅前、清水駅前)バス案内所 TEL.054-252-0505

入山		下山	
静岡駅北口	畑種第一ダム	畑種第一ダム	静岡駅
9:50	*13:00	13:15	*15:30
		14:25	17:50

注意:直行バスになりますので途中バス停はありません。横沢・井川駅でトイレ休憩あり。★印は降車専用で停車いたします。(乗車はできません。)天候・道路事情により急遽運休する場合があります。
【運賃(片道)】
 JR静岡駅 ↔ 畑種第一ダム 3,100円(小人)1,550円
 畑種第一ダム → 井川駅 1,050円(小人)530円(下山のみ)
 ※運賃には、手荷物代を含みます。